NEXT GENERATION

～次代を担う鹿児島の農業者たち～

九州農政局　鹿児島県拠点・鹿屋駐在所

はじめに

鹿児島県は、九州の南端に位置し県本土から奄美諸島の島々まで南北約600kmと長く、温帯地域帯から亜熱帯地域帯に渡る気候を生かし、畜産や園芸作物、さとうきびなど多様な農業が取り組まれています。令和２年の農業産出額を見ると全国２位で、中でも肉用牛、豚、茶（生葉）などは全国１位を誇っています。

九州農政局鹿児島県拠点では、農業者をはじめ地方自治体、農業関係団体等の皆様に対して「みどりの食料システム戦略」などの農林水産省の施策を情報提供し、意見交換を通じて現場の意見を汲み上げ、農業者等が抱える課題を共に解決することにより、農業生産基盤の強化や農業者の経営安定、農村地域の活性化の実現を目指す取組を行っています。

こうした中、農業の魅力に惹かれ非農家から転身した新規就農者、将来の夢に向かって突き進んでいる新規就農者、地域のサークルに参加して仲間と切磋琢磨する新規就農者など、県内には数多くの活気ある新規就農者がいらっしゃることに気付かされました。

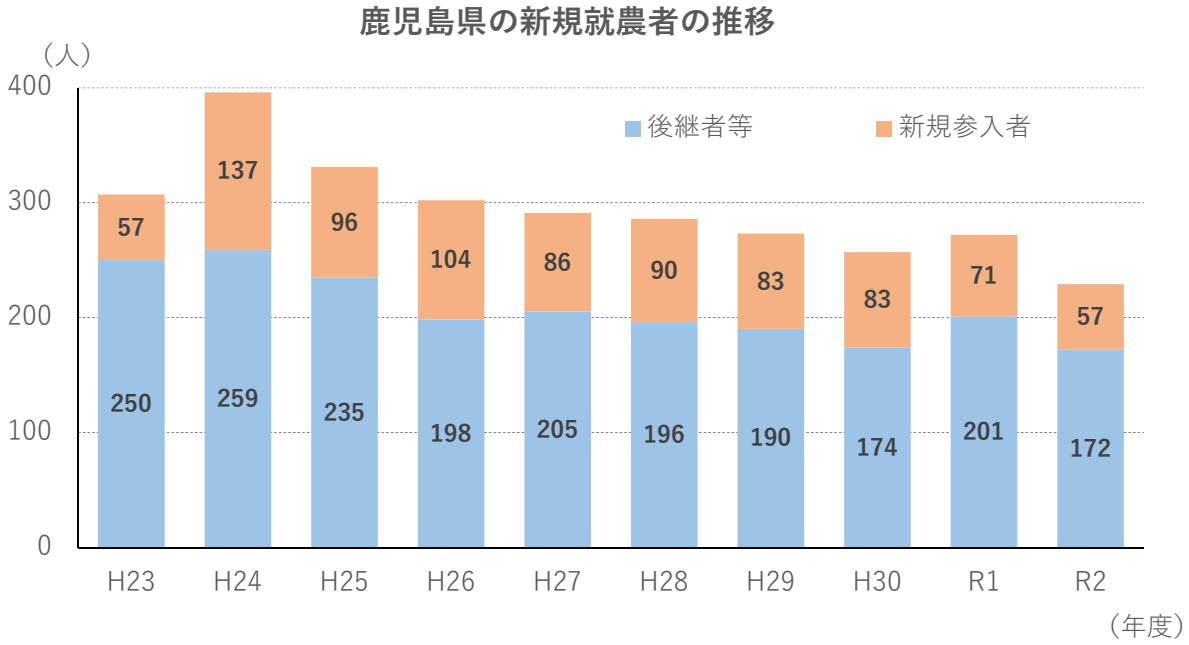
この冊子には、地域の次世代リーダーとして、今後の鹿児島県農業を担う新規就農者にスポットを当て、若い力で農業経営に取り組まれている新規就農者の皆様を広くＰＲすることで、これから農業を志す方への指針となることを期待するとともに、消費者の皆様にも、農業をもっと身近に知っていただきたいとの想いで、鹿児島県内39名の新規就農者の農業経営の概要、特徴的な取組、今後の展望、就農のきっかけ、就農を目指す方へのアドバイス等を盛り込みました。この冊子が鹿児島県農業の発展の一助となれば幸いです。

最後になりますが、新規就農者を紹介していただいた市町村及び快く取材に御協力いただいた39名の新規就農者の皆様に改めて感謝を申し上げます。皆様方の今後の御活躍を祈念申し上げます。

鹿児島県の新規就農者の状況

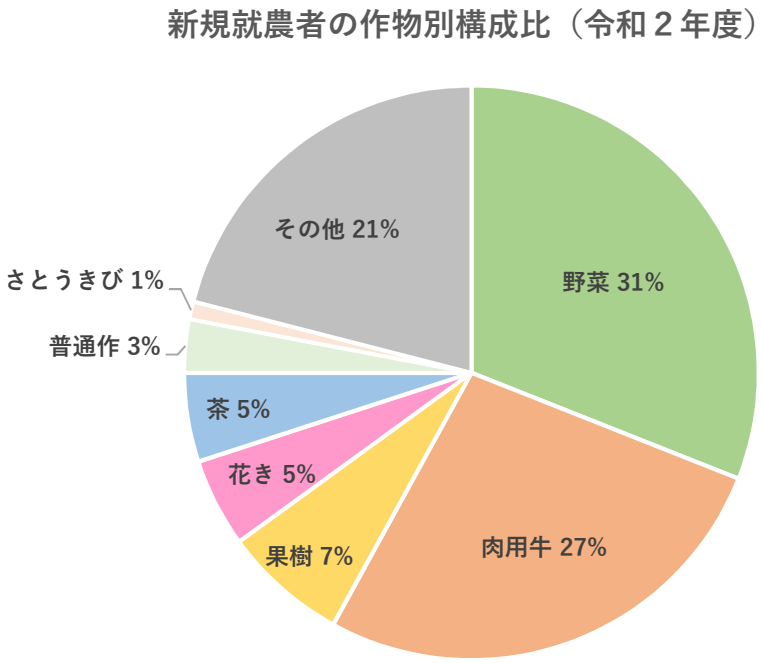
1．新規就農者の推移

鹿児島県の新規就農者は、平成24年度は396名でしたが、それ以降は横ばい傾向で推移しており、令和２年度は229名と前年度の84％になっています。



2．新規就農者の作物別構成比（令和２年度）

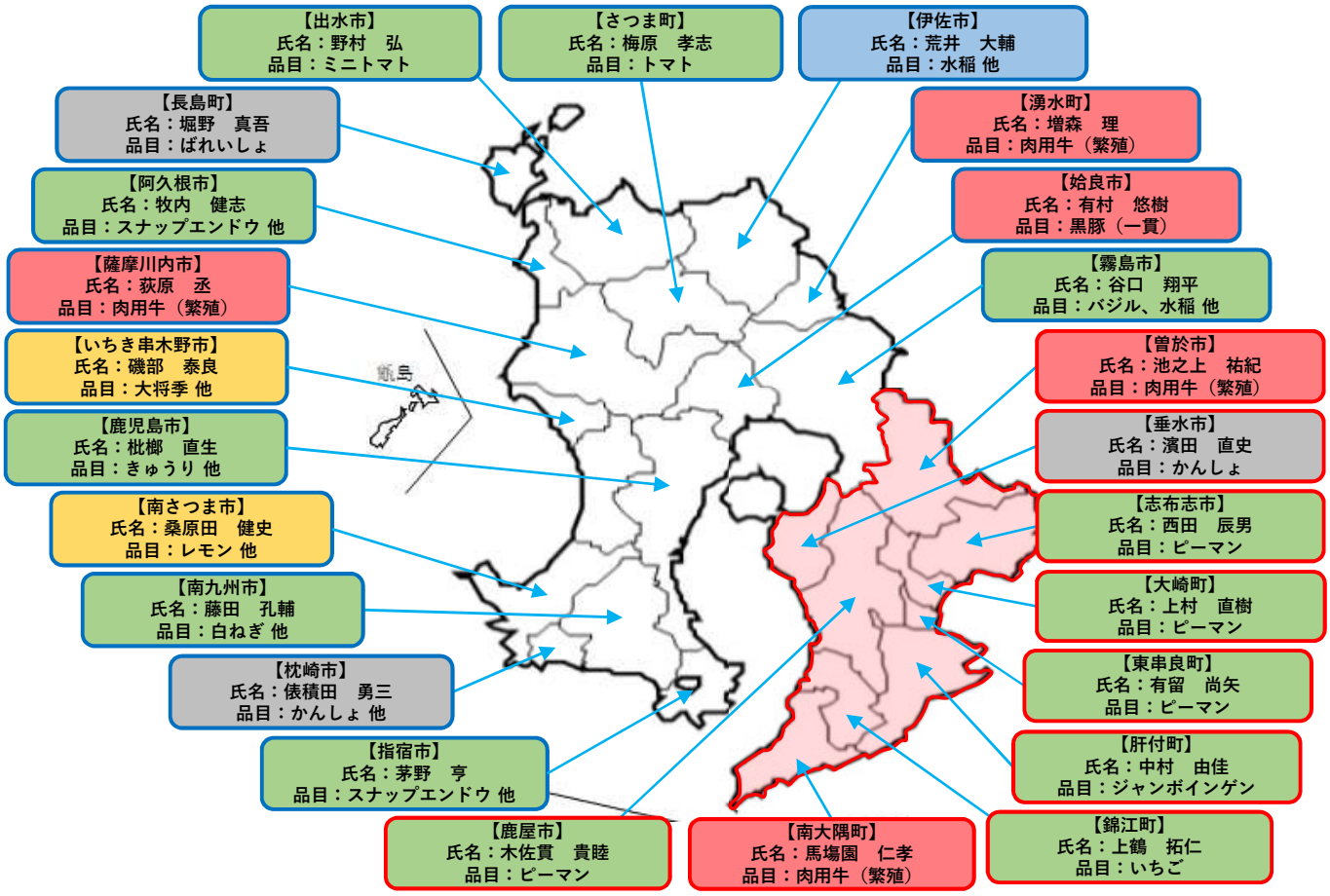
令和２年度の鹿児島県における新規就農者数の作物別構成比は、野菜が31％と最も多く、次いで肉用牛の27％、果樹が７％となっています。

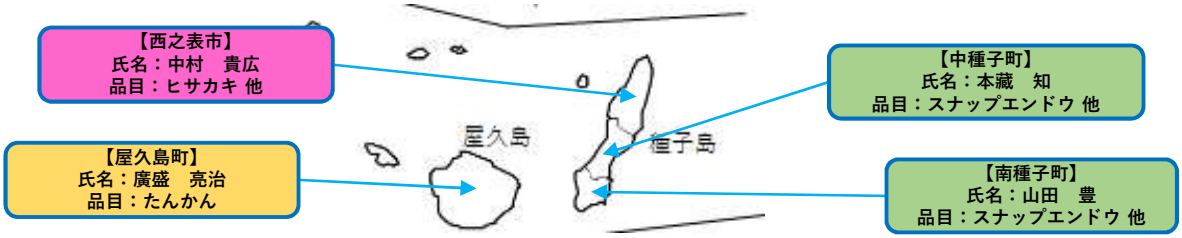


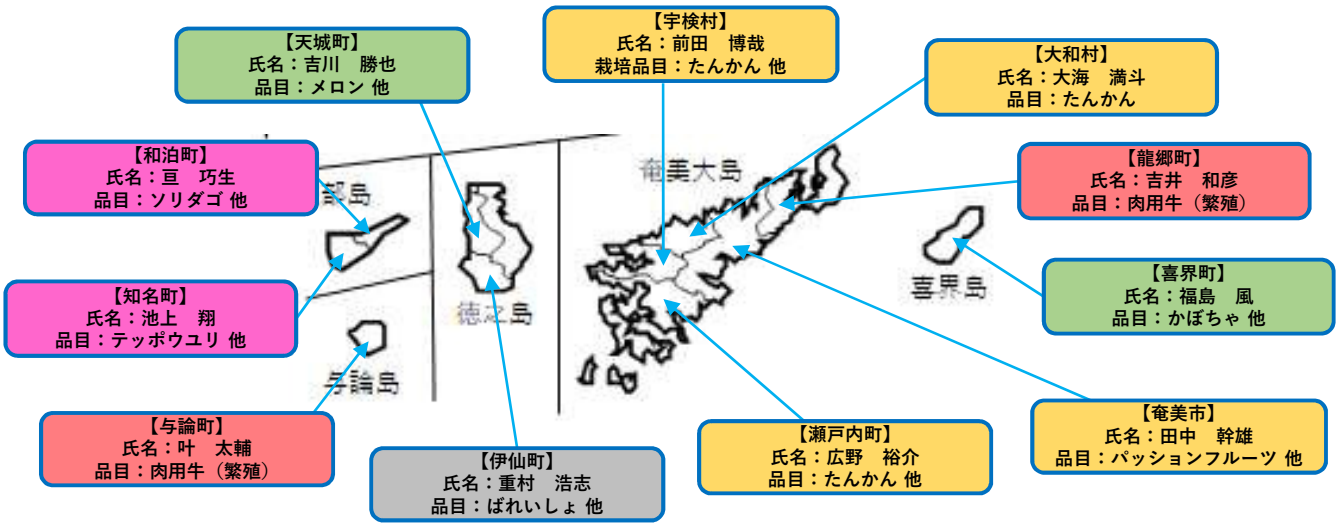
資料出典：鹿児島県

次代を担う鹿児島の農業者　（３９名）

● 野菜　● 果樹　● 花き・花木　● 畜産　● かんしょ、ばれいしょ　● 水稲







※　大隅地域は鹿屋駐在所が取材（赤枠）

【目次＜掲載一覧表＞】

ページ番号	市町村名	氏名	品目
1	鹿児島市	枇榔　直生	きゅうり（施設）、キャベツ、ブロッコリー 他（露地）
2	鹿屋市	木佐貫　貴睦	ピーマン（施設）
3	枕崎市	俵積田　勇三	かんしょ（露地）、ニガウリ（施設）
4	阿久根市	牧内　健志	スナップエンドウ、オクラ（施設）
5	出水市	野村　弘	ミニトマト（施設）
6	指宿市	茅野　亨	スナップエンドウ、オクラ 他（施設、露地）
7	西之表市	中村　貴広	花木：ヒサカキ、ロベ（露地）
8	垂水市	濱田　直史	かんしょ（露地）
9	薩摩川内市	荻原　丞	肉用牛（繁殖）
10	曽於市	池之上　祐紀	肉用牛（繁殖）
11	霧島市	谷口　翔平	バジル、みずな 他（露地）、水稲
12	いちき串木野市	磯部　泰良	大将季、ぶどう（施設）、温州みかん、大橘 他（露地）
13	南さつま市	桑原田　健史	レモン、グレープフルーツ、たんかん 他（露地）
14	志布志市	西田　辰男	ピーマン（施設）
15	奄美市	田中　幹雄	パッションフルーツ（施設）、たんかん（露地）
16	南九州市	藤田　孔輔	白ねぎ、ブロッコリー（露地）
17	伊佐市	荒井　大輔	水稲、ＷＣＳ、飼料用米、飼料作物
18	姶良市	有村　悠樹	黒豚（一貫）
19	さつま町	梅原　孝志	トマト（施設）
20	長島町	堀野　真吾	ばれいしょ（露地）
21	湧水町	増森　理	肉用牛（繁殖）
22	大崎町	上村　直樹	ピーマン（施設）
23	東串良町	有留　尚矢	ピーマン（施設）
24	錦江町	上鶴　拓仁	いちご（施設）
25	南大隅町	馬場園　仁孝	肉用牛（繁殖）
26	肝付町	中村　由佳	ジャンボインゲン（施設）
27	中種子町	本藏　知	スナップエンドウ、オクラ 他（露地）
28	南種子町	山田　豊	スナップエンドウ、オクラ、実エンドウ 他（露地）
29	屋久島町	廣盛　亮治	たんかん（露地）
30	大和村	大海　満斗	たんかん（露地）
31	宇検村	前田　博哉	たんかん、さとうきび（露地）
32	瀬戸内町	広野　裕介	たんかん、津之輝 他（露地）、マンゴー 他（施設）
33	龍郷町	吉井　和彦	肉用牛（繁殖）
34	喜界町	福島　風	かぼちゃ、とうがらし、白ごま 他（露地）
35	天城町	吉川　勝也	メロン、パッションフルーツ 他（施設）、さとうきび（露地）
36	伊仙町	重村　浩志	ばれいしょ（露地）、肉用牛（繁殖）
37	和泊町	亘　巧生	花き：ソリダゴ（施設）、ばれいしょ（露地）
38	知名町	池上　翔	花き：テッポウユリ（露地）スナップエンドウ（露地）
39	与論町	叶　太輔	肉用牛（繁殖）

注：次項から記載の年齢は各人への取材当時（令和４年３月～11月）のものである

野菜　＜枇榔（びろう） 直生（なおき）＞ 若い農業者を増やし地域を活性化したい！

ハウス栽培のきゅうり

＜基本情報＞
所在地：鹿児島市
年　齢：25歳（H30.4就農）

＜経営概要＞
品目：施設野菜、露地野菜、水稲
面積：水稲 10a
施設野菜　きゅうり 13a
露地野菜　なす 3a、ピーマン 3a、オクラ 3a、スィートコーン 3a、キャベツ 10a、ブロッコリー 10a、はくさい 5a

＜就農のきっかけ＞
幼少の頃から父親に付いて農業を手伝っており、野菜を育てることが好きだった。
中学生の時に、将来の職業を一番身近であった農業に決め、尊敬する父親が学んだ県立農業大学校へ進学した。
県立農業大学校を卒業すると同時に、地元で平成30年４月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞
・農地は、親から譲り受けたものは無く、自分で探したり農業委員会に相談するなどして、借り受ける（一部は購入）ことができた。
・農機具は父親から借りたが、トラクターは補助事業を活用し自分で購入した。

＜現在＞
・収穫量は変わっていないが、品質が向上したため規格外品が減り収入もアップしている。
・就農当時から整備しようと計画していたハウスが、補助事業を活用して今年２月に完成した。
・農業仲間を増やそうと思い、ＳＮＳを利用して農園の紹介や農業の魅力などを情報発信したり、ＪＡのイベントにも積極的に参加している。

新設したハウス

② これまで苦労した点

・市場に出荷できるだけの収穫量が無かったので、自分で売り先を見つけるためにセールスをすることが大変だった。
・住居に近い農地を探したが、なかなか見つからなかったこと。
・一人で全てをこなしているため、出荷時期になると他の作業との両立ができないこと。

③ 就農して良かった点

・野菜の購入者から「おいしかった」と言われた時が一番嬉しく、やりがいを感じる。

④ 今後の目標

・まずは、新設したハウスのきゅうり栽培を軌道に乗せて、その収穫量が県の基準を超えるようにしたい。
・将来的にはスマート農業(ハウス内の環境制御)を取り入れて、更なる収量アップを目指していきたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・困難なことに直面しても一人で悩まずに、先ずはいろんな人に相談することが大切である。
・就農するに当たっては、施設や機械だけではなく、資材を購入するためにも資金が必要なので、事前に準備しておくこと。
・県立農業大学校等で技術を習得してから就農すること。可能であれば更に農家で１年程度の修行を勧める。
・就農してすぐは収量が少ないことから、事前に少量でも取引可能な売り先を見つけておくこと。
・親元就農したり農業を引き継ぐ予定がある場合は、親に頼らず当事者意識を持って経営状況や営農計画をしっかり把握し、いつでも自立できるようにしておくこと。

野 菜

＜木佐貫（きさぬき） 貴睦（たかのぶ）＞　元気に楽しく、儲かる農業！

＜基本情報＞

所在地：鹿屋市
年　齢：37歳（H30.8就農）

＜経営概要＞

品目：施設野菜
面積：ピーマン 28a

出荷前のピーマン

＜就農のきっかけ＞

地元企業に就職し、仕事や会社の良いところ、悪いところが分かり始めたころ、何気ない夫婦の会話の中で、妻からピーマン農家でアルバイトをしていたころの話を聞き、農業に興味を持つこととなった。32歳の時に、妻に農業を始めたいと相談したところ、力強い後押しがあったことから脱サラし、平成30年８月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞

・就農するまで農業に関する技術を学んだことがなかったことから、市からピーマン部会を通じて先輩農業者を紹介してもらい、一年間通いながら研修を受けてピーマンの栽培技術を習得した。
・独立就農であったことから、農地はＪＡから紹介を受け、農地中間管理機構を通じて借り受けた。
・国や県の事業を活用してハウスを建設するとともに、機械（動力噴霧器等）も購入した。また、一部の機械（トラクター等）については近隣の農家から借り受けて使用している。

＜現在＞

・近隣の先輩農業者から樹形の整え方などのアドバイスを受け、また、県の普及指導員やＪＡの営農指導員の指導を受けながら、技術向上のために日々研鑽中である。

ピーマン

② これまで苦労した点

・ピーマンの樹形の整え方について、繁茂しすぎると作業に支障をきたし、繁茂を抑制すると実がつかないなど、就農後４年間試行錯誤しているが、現在も理想の樹形を確保することができていない。
・昨今の燃油高騰など支出が多くなっているが、それに見合う収入が得られない。

③ 就農して良かった点

・農業はサラリーマンと違い時間の制約がなく、自分のやり方次第で結果がついてくるのが最大の魅力で、農業にやりがい・生きがいを感じている。また、夫婦で作業を行っていることから、家族と接する時間が長いのも魅力の一つである。

④ 今後の目標

・収穫量を上げるために環境制御装置を充実させるとともに、国の事業を活用してハイブリッド型のヒートポンプを設置し、燃油高騰時の支出削減に繋げたい。
・天敵を活用した害虫防除など、総合的病害虫・雑草管理（IPM）を導入し、環境に配慮した次世代に繋がる農業を実現させたい。
・自動潅水システムなどのスマート農業を実践し、効率的で時間に余裕のある農業経営を行いたい。
・農地については、10年間の利用権設定で借り受けているが、地権者の意向によっては購入することも検討している。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・自分が非農家で農業の知識もないまま就農した中で、近隣の先輩農家のアドバイスなどを受けながら営農を行ってきたことから、人間関係を第一に地域に根差した農業者になってほしい。

かんしょ

＜俵積田（たわらつみだ） 勇三（ゆうぞう）＞ 農薬を使用しない有機農業を目指す！

＜基本情報＞

所在地：枕崎市

年　齢：36歳（R3.4就農）

＜経営概要＞

品目：かんしょ、施設野菜

面積：かんしょ　2ha、

施設野菜　ニガウリ　2a

ハウス内のニガウリ

＜就農のきっかけ＞

工業系の高校に通い、県立農業大学校の農学部野菜科に入学。卒業後、介護関係の仕事に就いていたが、一生懸命農業に取り組む農業者である父親の姿に魅力を感じ、父親が経営する農場を一部引き継いで、令和３年４月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞

・慣れない機械の操作は、父親から指導を受けた。

・農地は約２haを父親から譲り受け、機械や施設は父親と共同で使用している。

＜現在＞

・県立農業大学校時代に研究したニガウリの施設栽培を始めた。また、ニガウリの裏作としてスナップエンドウの栽培を予定している。

・独自に工夫していることとして、液体肥料のエコバランスや根っこりんを使用している（植物の根にある良い菌類を増やす効果がある）。

・昨年、就農して初めてかんしょの収穫を行った。今年も、サツマイモ基腐病の防除をしっかりと行い、収量を確保していきたい。

かんしょのほ場

② これまで苦労した点

・消毒作業に動力噴霧器を使用しており、ほ場にホースを引っ張っていく作業は体力的に大変である。

・昨年は経営面積を増やしたため、かんしょ収穫期には非常に忙しかった。

・作業の段取り等効率が悪く苦労した（現在は、よく考え工夫するようになった）。

③ 就農して良かった点

・農業機械の操作やマルチ張りの大変さを実感し、父親の今までの苦労が分かった。

・かんしょの作付面積を増やしたことにより収入が増えた。

・質の良い農産物ができ、収穫したニガウリを販売した時、地域の人から高評価を得て嬉しかった。

④ 今後の目標

・現在、かんしょは焼酎原料用のコガネセンガンと青果用の紅はるかを作付けしている。今後は収益を上げるため、紅はるかの面積を増やしていきたい。

・新たに管理機を購入し、スナップエンドウやオクラ等の品目を増やしたい。

・消費者に直接、農産物を届けられるネット販売や直売所での販売、また青果用に出荷できないものを有効活用するため、業務用の食材や菓子原料用等としての販路を開拓したい。

・有機農業は大変であるが、過度な農薬や化学肥料の使用は環境や身体に悪いと感じており、将来は有機ＪＡＳ栽培に取り組みたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・農作業安全を心がけ、機械操作は周りをよく確認し、慎重に行って欲しい。

・県立農業大学校で就農に役立つ多くのことを学んだ経験から、就農前に大学や研修施設等で農業の技術を習得しておくことを勧める。

・父親の農作業を手伝ってきたことが役に立った。農業体験をできる機会があれば積極的に経験しておいた方が良い。

野 菜　＜牧内（まきうち） 健志（たけし）＞ 農業就業人口を増やすため農業の魅力伝えたい！

＜基本情報＞
所在地：阿久根市
年　齢：41歳（H30.4就農）

＜経営概要＞
品目：施設野菜
面積：スナップエンドウ ８ａ、
　　オクラ ４ａ

ハウス内作業の様子

＜就農のきっかけ＞
就農前は他県の百貨店でブランド販売を行っていた。いつかは地元に戻りたいと考えていたところ、妻の後押しや平成28年に熊本地震があったこともあり、娘が小学校に上がる平成29年に地元へ帰った。最初は農業で生活できるか不安で再就職も検討していたが、農業をやってみたい気持ちが強く、普及指導員の勧めもあり、平成30年４月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞
- 父がＪＡ勤務時代から兼業農家で退職後も農業を続けており、トラクターは父から譲り受けた。
- 農地も父からの贈与であるが、ビニールハウスの建設費用は補助事業を活用し、不足分は公庫から融資（無利子）を受けた。また、新規就農者助成金は今年が最終年となる。
- 営農指導員から初心者でも栽培し易いとの勧めでスナップエンドウを選んだが、初年度は分からないことがあるたびに一日何度も電話で指導を受けていた。

＜現在＞
- 昨年からオクラの栽培も開始した。また、スナップエンドウは市のふるさと納税の返礼品として扱われている。

ハウス内のスナップエンドウ

② これまで苦労した点
- 就農当初は経済的に苦労した。週２回のバイトで収入を補っていた。今考えてみると作業的に無駄が多かったと感じている。
- 現在は収穫最盛期の労力が不足していること。毎日30～40kg収穫、最盛期は200kgを超えるため、妻と夜遅くまで作業を行っている（今のところ雇用は考えていない）。

③ 就農して良かった点
- 手間を掛けた分、対価が返ってくるところ。
- ふるさと納税の返礼品として扱ってもらっていることもあり、消費者から「美味しかった」と言ってもらえる時は嬉しい。

④ 今後の目標
- 栽培技術を改善し収量を上げること。今年の夏場にハウス天井の遮光を試してみたところ品質が向上した。
- 自分が農業で稼いでいるモデルとなって、農業をやりたいと思う若い人を増やし、農業を皆が憧れる職業に押し上げていきたい。
- 稼げることが分かれば若い人も農業をやると思う。そして、「農家のお嫁さんになりたい」という人が増えてくれることを願っている。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス
- 新規就農者助成金が交付される間は、手の行き届く規模で行い、まずは技術を磨くこと。
- 近所のベテラン農家のほ場を見に行き勉強すること。また営農指導員を頼ること。
- 農業を始めたければ、まずは研修等で体験し実際にやれるのかを判断すること。

野菜 ＜野村（のむら） 弘（ひろし）＞ 良い物を作れれば単収と所得はついてくる！

＜基本情報＞
所在地：出水市
年　齢：48歳（H29.8就農）

＜経営概要＞
品目：施設野菜
面積：ミニトマト 25ａ

ミニトマト

＜就農のきっかけ＞
専門学校で22年間勤務し簿記の講師や広報を担当していたが、自分の能力の限界や仕事への閉塞感から、職場での将来像がイメージできなくなった。自分らしく生きるため、何が向いているのか考えた先が農業であった。周りからの大反対もあったが43才で会社を辞め、１年間の研修を経て、妻の実家がある出水市で平成29年８月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞
・ミニトマト（品種名：小鈴クイーン）25aをハウスで栽培し全量をＪＡに出荷。ＪＡや出水市の推奨と、収穫期間が10～６月までと長く、その期間の収入が見込めることからミニトマトを栽培することにした。
・土地、施設の所有には多額の資金が必要なことから、農地とハウスは購入ではなく妻の実家近くに賃借している。
・資金は前職の退職金もあったが、農機具の購入資金と当面の運転資金は公庫から調達した。なお、国からは新規就農者助成金の交付を受け、ハウス開閉装置は県単事業で整備した。
・出水市アグリセンター（種苗施設）においてミニトマト等の栽培研修を１年間受講。また、地元の農家（女性）に師事し技術の習得に努め、仕立て等の栽培技術は、ミニトマト栽培の盛んな隣県の生産者から学んだ。

ハウス内のミニトマト

＜現在＞
・就農当初の単収は７～８トンであったが、肥料配合の工夫、防除の徹底等により、現在は12トンと安定した収量が確保できるようになり粗収益は倍増した。

② これまで苦労した点

・前職の退職金はあったが、それでも資金繰りには苦労している。
・就農して数年は、病害の発生や作業の遅れなど生産技術が未熟で苦労した。
・栽培面積に対してどれだけの労力（雇用者を含め）が必要か見極めることが難しい。

③ 就農して良かった点

・自分らしく生きることができる。ただ、就農時には周囲の99%の人から反対された。

④ 今後の目標

・技術を磨き、更なる単収アップと栽培面積を現在の２倍（50a）にしたい。
・適期作業のために、人件費は惜しまず投資し、人件費の増加分は手入れを徹底することで所得の増加を図っていきたい。
・自分らしく良い作物を作るよう努力していきたい。そうすることで必ず単収と所得はついてくる。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・営農をスタートする上で利用できる制度や事業を調べるなど、事前に情報収集しておくこと。研修制度や国等の助成金を活用することは重要である。
・どのような形態（賃借か購入等）で始めるのか、自らが市役所等へ足を運び相談することが必要であり、それができなければやらない方が良い。
・就農イコール個人事業主となることを肝に命じ、新規就農者助成金を受けたら受領期間中に一定の成果（収入）を出すことが重要である。一定の成果が出ていなければ新規就農者助成金が終了した後に借入金が膨らんでいくことになりかねない。

野 菜

＜茅野（かやの） 亨（とおる）＞アクシデントもプラス思考で乗り越えよう！

ロゴマーク
（はっぴーちゃいる
どべじたぶる）

＜基本情報＞
所在地：指宿市
年　齢：44歳（H30.2就農）

＜経営概要＞
品目：露地野菜、施設野菜
面積：露地野菜 オクラ 40a、スナップエンドウ 30a、
ブロッコリー 20a、そら豆 15a、
実エンドウ 10a、きぬさや 3ａ
施設野菜 オクラ 15a、スナップエンドウ 15a

＜就農のきっかけ＞
指宿市内で約20年、看護師として勤めていたが、中間管理職となり上下関係で非常に辛い思いをしていた。そんな時期に知り合いの先輩が楽しそうに農業をされている姿、生き生きとしている様子を見て就農しようと思った。看護師だった妻が、私より１年先に退職し農業を始め、周りからの反対もあったが、悩んだ末に２人で農業を頑張ろうと決意し、平成30年２月に就農した。

① 就農から現在までの状況

露地オクラ

＜就農時＞
・先輩がオクラを作っていたことと、ＪＡからオクラと豆類は確実に収入が得られると勧められ、指宿の名産であるオクラを栽培することにした。
・農地は、知人や近隣の離農者から借り受け、ハウスを建てた土地は農業委員会からの斡旋により購入した。
・就農時に離農者からトラクターや動力噴霧器等、一式を安価で譲り受けた。

＜現在＞
・収益も多少良くなり、豆類の芽かき、収穫のためのアルバイトを雇えるようになった。
・妻がロゴマークを作成。妻の名前が幸子なのでハッピーチャイルドの英文字をデザインし、栽培しているスナップエンドウと飼っているネコのイラストを入れている。物産館等に出荷する野菜の袋にロゴマークを貼っており、生産した農作物のブランド化を図っている。

② これまで苦労した点

・就農当初は、土地探しに苦労した。また、収入が少なく、更に前職の収入に対する税金を妻の分も含め２年間支払うことになったため金銭的に非常に苦しく、新規就農者助成金の150万円で何とかしのいだ。
・オクラは、気象条件により急激に成長するため、収穫が追いつかないことがあった。人を雇えなかったので夜中の３時から収穫していた。

③ 就農して良かった点

・元々色白だったが、日に焼け心も身体もとても元気になった。また、農業に関わる様々な喜びを感じている。
・看護師の頃は休暇が取れなかったが、農業は時間の融通がきくので、子供のスポーツ観戦もできる。
・夫婦の会話が増え、更に仲良くなった。１人では気付かなかったことが、２人だと補い合って改善策が見えてくる。妻の細やかな目線、気付きに感心することもある。

④ 今後の目標

・妻と二人でやっていける面積で、単収の向上を目指したい。
・４月から出荷できる早出しオクラは、露地オクラより高値で売れるためハウスを増設する予定である。
・１年を通して収入を得られるよう、栽培方法、作物の種類、栽培時期等を工夫したい。
・固定客も掴みつつあり、今後は販路拡大のために通信販売を考えている。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・土地と自己資金は必要であり、確保したうえで（確保する目処が立ってから）就農すること。
・自分が栽培する作物の生態、特徴をしっかり知っておく必要がある。
・可能であれば、農業大学校等である程度の知識を得ておいた方が良い。また、知識と遭遇する現実には大きな違いがあるので、農業体験も大切である。

花木

＜中村（なかむら） 貴広（たかひろ）＞　受け身にならず、主体性を大事に！

＜基本情報＞
所在地：西之表市
年　齢：35歳（R2.6就農）

＜経営概要＞
品目：花木
面積：ヒサカキ　1ha、
　　ロベ（フェニックスロベレニー）　30a

出荷用に調整中のヒサカキ

＜就農のきっかけ＞
島外で会社勤めをしていたが、父親からの誘いと妻の後押しがあって、農業を始めることを決断し、４年前に帰郷。種子島営農学校で２年間の研修（１年目は県・ＪＡ等の講師による基礎研修、２年目は指導農業士宅での現地研修）を経て、令和２年６月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞
・農地は、祖父所有の土地を借りている。
・西之表市ではヒサカキを栽培する人が少なく、栽培マニュアルもなかったため、独学と隣接する町の栽培農家に相談する等、試行錯誤しながら栽培技術の向上に努めている。
・ロベは、種子島営農学校の現地研修でお世話になった指導農業士から栽培技術を学んでいる。
・トラクターは父親から譲り受け、出荷前の一時保存に必要な冷蔵庫は自己資金で購入し設置した。
・現在、新規就農者助成金、受給中である。

ヒサカキのほ場

＜現在＞
・ヒサカキ1,000～2,000本、ロベ500枚ほどを週２回出荷している。
・出荷量を確保するため、令和３年10月にヒサカキの組合を設立した。
・就農１年目は収入がなく経営に苦労したが、栽培方法や作業工程を試行錯誤した結果、２年目からは安定している。
・経営を安定させるために他品目を試験的に栽培する等、常に先を見据えた取組を行っている。

② これまで苦労した点

・ヒサカキについては、種子島版の栽培マニュアルがなかったこと。そのため、自分と先輩農家の経験をデータ化し、試行錯誤しながら自分自身に合った栽培体系の確立を目指している。
・生産したものを島内から本土へ海上輸送する際に冷蔵ができないことが課題である。

③ 就農して良かった点

・単純に楽しい。仕事以外の時もヒサカキのことを毎日考えている。ヒサカキの作業は好きで、全く苦にならない。

④ 今後の目標

・ヒサカキの栽培マニュアル（種子島版）を市役所やＪＡ等と連携して作成し、市内のヒサカキ栽培農家や、これから栽培を考えている方に対して配布していきたい。
・マニュアルを作成・配布することで、市内全体の栽培技術の高位平準化を図り、西之表ヒサカキのブランド化に取り組んでいきたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・新規就農者助成金を受給している期間に、経営基盤を確立できるよう努力を惜しまないでほしい。
・農業は、最初に経営基盤をしっかり確立できれば稼げる職業である。自分の育てたものが、結果となって返ってくる喜びを実際に体感してほしい。
・無理に規模拡大を目指さなくても自分の生活スタイルに合わせた計画が立てられることも魅力である。
・受身にならず主体性を持って、自分から行動することが大事である。

かんしょ

＜濱田（はまだ） 直史（なおふみ）＞　独自路線の農業経営で収益アップを！

＜基本情報＞

所在地：垂水市
年　齢：38歳（H30.3就農）

＜経営概要＞

品目：かんしょ（紅はるか他）
面積：かんしょ 120a

つらさげ芋

＜就農のきっかけ＞

平成29年に「つらさげ芋（収穫したかんしょをつるごと吊るして熟成させた芋）」に出会い、焼き芋にして食べたところあまりのおいしさに衝撃を受け、「つらさげ芋」の焼き芋を、もっとたくさんの人に知ってもらいたいと強く思い、平成30年３月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞

・平成29年に勤めていた銀行を退職し、平成30年に「つらさげ芋」の産地である垂水市の大野原地区で就農した。
・親から資金援助を受けつつ、農地は農地中間管理機構を通じて借り受け、機械は近隣農家から中古品を譲り受けた。また、新規就農者助成金を活用している。
・農地は長年耕作していない状態であったため、近隣の農家に助けてもらいながら整地を行った。

＜現在＞

・生産した青果用かんしょと焼き芋は、７割程度を妻が管理する鹿児島市の直営店舗で販売し、残りの３割は県内外の業者に販売している。
また、焼き芋アイスはアイスクリーム専門業者に委託して加工を行い、販売している。

かんしょの収穫

② これまで苦労した点

・農業専門の学校で修学することなく就農したことから、就農当初は手探りの状態での営農であった。
・農業収入は就農当初から順調に増えているが、近年はサツマイモ基腐病の発生により収入が減少している。

③ 就農して良かった点

・自分で栽培した農産物を自分で売ることができることが最大の魅力で、販売後に言葉にならない達成感が味わえる。
・農産物を販売する時に、消費者と直接話をする機会が増え、人との繋がりが広くなった。

④ 今後の目標

・サツマイモ基腐病対策として、バイオ苗の導入及び適正防除を行うとともに、リスク分散のため多品目の生産にもチャレンジし、将来的には規模拡大及び作付品目の多角化を目指したい。
・当地域は過疎が進んでいることから、法人化に取り組み雇用創出による地域の活性化を目指したい。
・SNSを活用し、かんしょ栽培の作業風景や製品情報の発信を行っている。今後も継続して消費者の動向を把握し、更なる販路拡大を目指したい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・近隣の農家の方々の手厚い援助を受けながら就農することができた。就農を目指す方は人との繋がりを大切にし、地元に密着した農業者を目指してほしい。
・近年は経済状況等がめまぐるしく変化することから、こまめに情報収集を行い農業経営に繋げてほしい。
・消費者へ生産現場の状況及び生産した商品の情報提供を行うことは販路拡大に繋がると考えるので、SNSを活用した情報発信を行ってほしい。

畜産

＜荻原（おぎわら） 丞（じょう）＞　夢だった繁殖経営を始める事ができた！

＜基本情報＞
所在地：薩摩川内市
年　齢：24歳（R3.6就農）

＜経営概要＞
品目：肉用牛（繁殖）
経営規模：繁殖雌牛 11頭
子牛 8頭
飼料作物 3ha

繁殖牛舎

＜就農のきっかけ＞
小さい頃から牛の繁殖を行う祖父母の姿を見ており、自分も牛飼いをやるのが夢だった。
市来農芸高校と北海道酪農大学で繁殖を学び、牛飼いの夢を叶えるために帰郷し、令和３年６月に就農した。

① 就農から現在までの状況

〈就農時〉
・牛舎は祖父の代からのものを使用している。
・トラクター、ラッピングマシーン等は祖父が購入したものを使用している。
・３haの農地は祖父の所有地と近所の農家からの借り受け。
・技術的な部分はＪＡの営農指導員、祖父、近所の繁殖農家に相談した。

〈現在〉
・認定新規就農者であり、新規就農者助成金を受給している。
・農地３haに春はイタリアンライグラス、夏にローズグラスを栽培して乾草ロールにしており、粗飼料自給率100%である。また、稲わらは、近所の農家が集めたものを購入しており100%国産である。

粗飼料の乾草ロール

② これまで苦労した点

・就農当初は、子牛が下痢をするなど発育がよくなかった。マニュアル通りではなく、１頭１頭きめ細かな餌の配合などに気を付けないといけないことを感じた。
・資材等の高騰。特に飼料価格が高騰していること。

③ 就農して良かった点

・小さい頃から牛飼いをやりたいと思っており、その夢が叶って嬉しい。
・飼養管理は毎日行わなければならないが、自分で時間の調整ができるところ。

④ 今後の目標

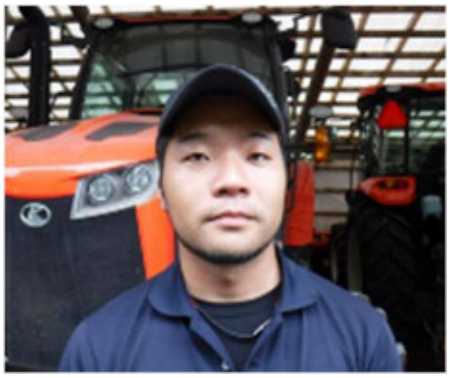
・牛舎を新規に建て、まずは飼養頭数を一人で管理できる70～80頭まで増頭したい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・地元の人とのコミュニケーションを取ること。稲わらを分けてもらえるのは、日々の付き合いで良好な関係を築けているからである。

畜産

＜池之上 祐紀（いけのうえ ゆうき）＞　購買者に求められる子牛生産！



＜基本情報＞
所在地：曽於市
年　齢：22歳（H31.4就農）

＜経営概要＞
品目：肉用牛（繁殖）
経営規模：繁殖雌牛 22頭、育成牛 ２頭、子牛 15頭
飼料作物（イタリアン ） ５ha

＜就農のきっかけ＞
小さい頃から身近に牛がいて、高校に進学してから畜産への興味が深まった。その後、宮崎大学畜産別科へ進学し、１年間修学したことで更に就農への意欲が高まり、平成31年４月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞
・宮崎大学畜産別科を修了後に平成31年から親元で就農し、両親が行っている繁殖経営に参加して少しずつ経験を積んだ。
＜現在＞
・現在は母牛22頭を所有しており、毎年更新しながら少しずつ増頭している。

牛舎

② これまで苦労した点

・冬場の下痢対策や夏場の温度管理等、個体管理が大変である。
・監視カメラを導入し、映像で24時間牛を確認できるよう個体管理に気を配っている。

③ 就農して良かった点

・農業を通じて地域の方と繋がりを持つことで、自分の経営にもプラスになっている。
・地域の畜産農家と共同で除角作業を行い、地域に貢献できること。

④ 今後の目標

・母牛の更新と増頭を行いながら牛舎を増築し、５年後には飼養頭数を50頭まで増頭したい。
・経営安定を図るためにも、個体管理に気を配って、病気や事故が発生しないようにしたい。
・化学肥料は使用せず、堆肥を利用した資源循環型の飼料作物の生産を継続していく。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・生き物を相手にした大変な仕事だが、自分が世話をして成長した子牛が高値で売れた時の喜びは大きく、やりがいがある。
・自分一人では畜産経営は出来ないので、両親や地域の人々との繋がりを大切にし、みんなの力を借りながら農業経営に取り組んで欲しい。

野 菜

＜谷口（たにぐち） 翔平（しょうへい）＞ 人との繋がりを大切にする農業経営を！

＜基本情報＞

所在地：霧島市

年　齢：25歳（H28.4就農）

＜経営概要＞

品目：露地野菜、水稲

面積：露地野菜（バジル、ブロッコリー、みずななど）50a、水稲 50a

バジル

＜就農のきっかけ＞

小学生の時にプランターで野菜を育てる授業があり、日々成長する野菜を見て栽培の楽しさを体感するとともに、その野菜を食べた両親から美味しいと褒められたことから、農業への憧れと就農意欲が芽生えた。その後、中・高生になってもその気持ちは変わらず、県立農業大学校へ進学し、平成28年４月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞

・農業をしていた祖父が病気でリタイアしたため、平成28年に祖父から農地や機械を譲り受けて就農。
・経営開始後、借地による経営面積の拡大とともに、新規就農者助成金を活用し中古機械を購入。
・販路に困ったことから、霧島市と連携して若手農家組織による販売等を開始した。
・食育の一環として近くの小学生を対象に、毎年、野菜の収穫体験を実施している。

＜現在＞

・就農後は様々な野菜にチャレンジしたが、現在は比較的収益性の高い葉物野菜をメインに栽培している。
・不足する技術や経営力を向上させるため４Ｈクラブに加入し、先輩農業者達とのネットワークを活用して日々研鑽中である。

バジルのほ場

② これまで苦労した点

・土づくりをおろそかにしたことから生育障害が発生し、土づくりの大切さを痛感した。
・販売先を見つけることに苦労した。
・農業大学校は設備も整っており充実した勉強もできるが、学校での農業実習と実際の営農にはかなりの格差があることを実感している。

③ 就農して良かった点

・食の大切さや野菜の美味しさが分かるようになったこと。
・作業などの日程調整が、ある程度は自分で出来ること。
・幅広い世代の人と関わることで、様々な価値観を学べること。

④ 今後の目標

・安定的な所得確保のため、加工業者を通じて大手食品メーカーへドレッシングの原材料となるハーブ類を契約出荷すること。
・米の直接販売やSNSを活用した新規顧客の確保。
・現在は露地栽培のみだが、天候に左右されず安定した品質と収量で所得を確保するため、施設園芸にもチャレンジしたい。
・農業者の高齢化が進む当地域で、若手が中心となって皆が助け合いながら営農が継続できるような集落営農組織をつくり、農地を守っていきたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・就農当初、借金をためらったため思うような機械導入や施設整備ができず後悔している。就農の際は思い切って必要な初期投資を行うべき。
・親元就農とは違い独立自営の場合、先ずは法人で雇用就農し農業経営を学んだ上での経営開始が望ましい。
・４Hクラブへの加入や地域住民との交流が今の自分を支えているので、人との繋がりを大切にしてほしい。

果 樹　＜磯部（いそべ） 泰良（たいら）＞　人との繋がりを大切にする農業経営を！

＜基本情報＞
所在地：いちき串木野市
年　齢：28歳（H29.7就農）

＜経営概要＞
品目：露地果樹・施設果樹
面積：大将季 35ａ、大橘 10a、ぶどう 10a、
温州みかん 20ａ、ポンカン 5a

収穫前の巨峰

＜就農のきっかけ＞

高校在学中に宮崎県の東国原知事がトップセールスをしていたマンゴーを食べて、農業に興味を抱いた。また、同時期に県立農業大学校の特集番組をテレビで観てオープンキャンパスに参加したところ、校風や教師に好感を持ったので入学を決意した。

県立農業大学校の果樹科を卒業後、指宿市内で野菜・マンゴーを栽培している大規模農家に就職し、３年間修業した（最後の１年は自営開始の準備も並行）のち、平成29年７月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞
- 県立農業大学校在学中に、研修先の農業者に師事したのがきっかけで、以後交流するようになり、その農業者からポンカンが植栽されている農地30aを借り受けて営農を開始した。
- 借り受けた農地の近くに栽培を止めたみかん用ハウスがあったので借用している。
- 近隣の農家からぶどうハウスを借り受け、今年からぶどう栽培を開始し共同販売している。

＜現在＞
- 借用した農地のほとんどは、ぶどう、ポンカン、早生みかんが植栽されていたが老木であったため、現在植え替えを行っている。

ハウス内のぶどう

② これまで苦労した点

- 最初に借り入れの契約を交わした農地を、諸事情から１年で返還せざるをえなかったこと。
- 就農直後に初期投資に費用が掛かったことと、収入が少なかったこと。
- 経済的に余裕がなく、今でも農閑期には他の農家の手伝いなどをしながら副収入を得ている。

③ 就農して良かった点

- 就農にあたり地域の人や営農指導員などから助言をもらうなど、周りの方々に支えられている。
- 運よく植栽されている農地を借り受けることができ、好きな農業を始めることができた。
- 自然の恵みを感じるとともに、自分で作った果実に愛情を感じられるようになった。

④ 今後の目標

- 施設栽培の面積を１haに拡大したい。
- まずはハウスみかんの栽培を成功させ、将来的にはマンゴー栽培にも取り組みたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- 果樹栽培は、苗の植え付けから始めると収穫ができるまで数年を必要とするので、その間は収入が得られないことから、別の収入源を確保しておくなど、計画的に営農を開始する必要がある。
- 県立農業大学校に就学したことが、技術面においても人脈を広げる面においても、大変メリットがあった。就農後、人との出会いや繋がりを大切にしていると色々なサポートが得られ、現在も財産となっている。
- 果樹部会や４Ｈクラブ等の活動に参加することで、仲間が増えて心の支えになっている。

果 樹 ＜桑原田（くわはらだ） 健史（たけひと）＞ 新品目へのチャレンジで地区を活性化！

＜基本情報＞
所在地：南さつま市
年　齢：34歳（R2.3就農）

＜経営概要＞
品目：露地果樹
面積：レモン 40a、グレープフルーツ 20a、
その他（すだち、ゆず、ポンカン、たんかん）140a

＜就農のきっかけ＞
大学卒業後、バンドのボーカルとして全国ツアーなどの活動を行っていた。
水俣市の柑橘農家での収穫体験や栽培方法などの話を聞いて農業に興味をもった。また、同じタイミングで、結婚した妻の実家が果樹を栽培していたこともあり、この土地で就農しようと決意した。将来を考えていく中で、合計1000本の柑橘を栽培し、ここ坊津町秋目で経済的な土台を作りたいと思い、令和２年３月に就農した。

① 就農から現在までの状況

レモン

＜就農時＞
・農地は農地中間管理機構を通じて借り受け、草刈用のハンマーナイフモア、動力噴霧器は師事している農家から無償で譲り受けた。
＜現在＞
・自己資金がない中で、効率化を図るため収穫した果実を一時保管する作業施設を整備したいので、青年等就農資金の申請手続きを進めている。
・柑橘類は風害により発生する「かいよう病」に弱いため、幼木の回りを防風木で囲む工夫をしている。
・収穫作業がしやすいように、ほ場の奥まで運搬車両用通路を造成している。
・収穫時期が重なり労働過重とならないよう多品目を植栽。就農時に定植したレモンは、今秋初収穫の予定である。
・無農薬・無化学肥料で栽培していることから、今後、有機JASの認定を受ける予定としている。

② これまで苦労した点

・果樹栽培を苗木の植え付けから始めたので、収入が国による新規就農者助成金のみであったことから、農閑期にはアルバイトをしていた。
・借り受けた農地は、長期間休耕地であったため雑木が生い茂っており、荒廃した農地を復元するためにチェーンソーを購入し、油圧ショベルを知人から借受け、約１万本の伐採と根株の撤去を行ってから新規に定植を行った。

③ 就農して良かった点

・早起きして太陽を浴び、土に触れ、海で泳ぐ。生きているということを実感できている。
・就農した地域は時間がゆっくりと流れていく感じが自分にあっている。都心部では味わうことのできない大自然の環境で暮らすことができていること。

④ 今後の目標

・現在２haに700本を植えており、当面は一人で栽培管理が可能な、３haに1,000本の植付けを目指している。
・軌道に乗れば法人化し規模拡大をしていきたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・教科書やインターネットに書いてある言葉だけを鵜呑みにせず、実際に現場に出向き色々な意見を聞くことが大切だと思う。「それは無謀だ」「無理だよ」という厳しい言葉をもらうこともあるが、貴重な意見なので熟考して自分の中に落とし込み、一歩ずつ進んでいくことが大切。
・理想を追い求めるだけではなく、きちんとリスクマネジメントし、経済観念を持って足元を固めていくことが必要である。

野菜　＜西田（にしだ） 辰男（たつお）＞　ライフワークを楽しめる農業経営！

＜基本情報＞
所在地：志布志市
年　齢：45歳（R4.7就農）

＜経営概要＞
品　目：施設野菜
面　積：ピーマン 27ａ

ピーマン

＜就農のきっかけ＞

会社員の頃から農業への憧れがあり、会社勤務をしながら就農を考えていた。会社のルーティンワークに疲れてきた中で、志布志市農業公社の就農支援サービスを見つけ、手厚いサポートに勇気をもらい、農業の世界へ飛び込むことを決意し、令和４年７月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞
・志布志市農業公社の研修制度を利用して就農した。

＜現在＞
・研修期間の２年が終了するので、本年から農地中間管理機構を通じ27aの農地を借地。
・新規にビニールハウスを建設し、本格的にピーマン栽培を開始。

ハウス内の様子

② これまで苦労した点

・経験がないまま農業を始めたため、農業機械の操作に大変苦労した。
・栽培技術についてもわからないことばかりだったが、公社の指導員の技術指導を受けつつ、地域の方々や同業者と、あらゆる機会を通して繋がりを作って取り組んでいる。

③ 就農して良かった点

・会社勤務をしていた時より体調が良く、ライフワークも充実している。
・地元を離れての就農ではあったが、多くの人と知り合うことができた。

④ 今後の目標

・これまでは研修期間だったため、経営的にはこれからだが、単収18トンを目指し栽培技術を磨いていきたい。
・通常の栽培技術を習得できたら、次のステップとして、環境制御技術ICT等を導入した技術なども取り入れていきたい。
・コストダウンや労力軽減も視野に入れ、天敵を利用した害虫駆除を積極的に取り入れ減農薬を目指していく。

【　クリオメ　】
害虫の天敵（タバコカスミカメ）を増殖・温存する植物

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・農業は初期投資が大きく、厳しい面も多いので、強い気持ちをしっかり持って就農してもらいたい。
・農業はマニュアル通りにやれば良いものではなく、自分で考えて仕事をやらないといけない。大変な面も多いが、自分がやったことが成果につながるので、やりがいがある。

果樹 ＜田中（たなか） 幹雄（みきお）＞ 奄美のたんかん、パッションフルーツの知名度UP！

＜基本情報＞
所在地：奄美市
年　齢：44歳（R元.7就農）

＜経営概要＞
品目：露地果樹・施設果樹
面積：たんかん　１ha、
　　パッションフルーツ　８a

パッションフルーツ

＜就農のきっかけ＞
東京都出身。平成30年から奄美市の仲卸業者に勤務していたが、農業はゼロからモノを作るやりがいのある仕事であり、奄美市で収入を上げるためには農業だと考え会社を退職した。その後、パッションフルーツ栽培について奄美市農業研究センターで１年間学び、たんかん栽培は農家に週１回通い研修を受け、令和元年７月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞
・たんかんは、知人の紹介で成木の畑が見つかったことから栽培を始めた。資金は政策金融公庫から融資を受けた。
・パッションフルーツは、栽培が奄美の気候に合っていることや、奄美市が栽培に力を入れていること、また、奄美の魅力を伝えるにはパッションフルーツが適していると思い栽培を始めた。ハウスは奄美市から借り受けている。
・草刈り機、ハンマーナイフモアー、動力噴霧器は購入。耕うんは奄美市農業研究センターに委託している。

＜現在＞
・土づくりを意識し、ぼかし肥料や有機物を使っている。様々な菌についても勉強しながら、現在実証中である。
・今年のたんかんの収穫量は２トン弱。パッションフルーツは１トン強の収穫量を見込んでいる。

収穫間近のパッションフルーツ

② これまで苦労した点

・一人で作業を行っていることから初めは流れが分からず、やることが後手後手になり苦しかった。
・離島のため、輸送手段であるフェリーが悪天候により欠航し、ネット販売等の注文への対応が厳しくなったり、送料が掛かることがネックである。

③ 就農して良かった点

・会社勤めのころと違い、自分で時間配分ができ、時間を自由に使うことができる。
・休みも自分で決めることができ、子供の行事等に参加することができるようになったこと。
・就農してすぐコロナ禍になり、子供たちの学校が休校となった。その際、畑に連れて行くことで親子の会話が増えた。

④ 今後の目標

・一人で作業するため面積拡大は目指さず、今の土地に100本程度のたんかんを追加で植栽したい。面積を増やすよりも糖度を上げるなど、品質、美味しさを高めていきたい。
・南の島「奄美大島」で育ったたんかん、パッションフルーツの魅力を伝え、知名度をUPしていきたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・人頼みではいけない。一人でやる覚悟が必要だと思う。それができて初めて良い仕事ができる。
・土地を見つけることも容易ではない。情報を得るためには周りの人に「農業をしたい」と言い続けることが必要である。
・研修が全てではなく、実際自分でやってみないと身に付かない。

野菜　＜藤田（ふじた） 孔輔（こうすけ）＞　農業を通じて地元を盛り上げたい！

＜基本情報＞
所在地：南九州市
年　齢：30歳（R3.4就農）

＜経営概要＞
品目：露地野菜
面積：白ねぎ 3.5ha、ブロッコリー 10a

白ねぎ

＜就農のきっかけ＞
いろんなことにチャレンジしたいと考え県外で就職したが、鹿児島県に戻り漁業に就いた後、農業関係機関に数年間勤めた。
自分の性格に合った一次産業である農業を通じて地元を盛り上げたいという思いが強く、農業関係機関に勤めながら準備を進め、令和３年４月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞
・狭い畑から始めることになったため、畑の広さに適した作物を検討した結果、白ねぎを栽培することとした。
・当初は知人にトラクターを借りていたが、その後、資金を借りて必要な機械を購入した。
・農業技術は独学で、インターネット等で調べた。

＜現在＞
・市場や一般小売店（スーパー、物産館等）との取引が増えている。
・収穫時には人手が不足するため、いかに作業を効率的に進めるか工夫している。また、今までの経験をノートに記録しており参考にしながら農作業を行っている。

白ねぎのほ場

② これまで苦労した点

・親は農業者ではなく、農家の知り合いもいなかったため、相談する相手も少なく、狭い畑しか借りることができなかった。
・資金繰りや納税に苦労した。
・収穫時に人手が足りず、求人を出しても見つからなかった。
・台風の被害を受け、ねぎの葉が折れ一部の畑が全滅した。また、軟腐病が発生した時に農薬散布の適量が分からなかった。
・機械の保管倉庫や作業小屋が見つからず就農後に情報を集め今は農作業に適した場所を借りている。
・最初は失敗の連続で問題に直面するたびにインターネット等で調べて対応した。

③ 就農して良かった点

・地域で自分の存在が認知されてきたこと。
・過去の営業経験が活かされ、取引も順調である。
・「若いものが頑張っているので土地を貸そうか」と声をかけてもらったり、いろいろアドバイスをもらえるようになった。

④ 今後の目標

・将来は法人化して、南九州市を盛り上げていきたい。
・スーパーとの取引が増えてきたので、作付面積を増やして従業員をもっと雇いたい。
・白ねぎの収穫は10月から翌年６月までなので、夏場に栽培できる作物を増やしたい。
・南九州市にねぎのブランドを作りたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・就農前の準備、学習は重要である。見切り発車せず、農業をやっていく環境を整えた上で就農することを勧める。
・地域では多くの方と知り合いになること。自分は地域の繋がりで畑や機械を借りることができた。
・農業を営む上でも、農業以外の知識がいろんな面で活かされる。
・経済的な面（収益、経営等）にも目を向け、将来の計画を立てることが重要である。

水稲　＜荒井（あらい） 大輔（だいすけ）＞　やりたいことは全力で！

＜基本情報＞
所在地：伊佐市
年　齢：41歳（H30.1就農）

＜経営概要＞
品目：水稲
面積：主食用 6ha 、WCS 5ha、
飼料米 1ha 、 飼料作物 6ha

フレールモア

＜就農のきっかけ＞

埼玉県出身で東京から鹿児島へ移住。ＩＴ関係の仕事に従事していたが、35歳の時に退職し、未経験ながら夫婦でできる農業を始めることを決意した。

東京での就農相談会で知り合った鹿児島県の関係者から、伊佐市の離農予定の方を紹介され、移住を決めた。移住後は、その方の元で約半年間技術を習得し、経営を引き継ぐ形で、平成30年１月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞
- 就農するにあたり、暖かい地域で穀物を栽培したいと思い、水田作を行うこととした。
- 初年度から新規就農者助成金を活用した。
- 当初機械は前経営者が使用していたものを購入し、その後は公庫の融資で更新等を行っている。

＜現在＞
- 農地は必要に迫られ一部を購入。他の大部分は近隣の土地所有者から賃借している。
- 水稲作のみなので、現在の米の販売価格の下落をどう乗り切るか苦慮している。
- 農業に関する知識と経験が全くない中、トライアンドエラーを繰り返しながら現在に至っている。

トラクター

② これまで苦労した点

- 農業経験がなかったことや、都市部からゆかりのない鹿児島県の農村部への移住だったので、全てが苦労であった。
- 生活習慣や世代の違いから、地域の人達とコミュニケーションを取ることにも苦労した。
- 儲かる農業にすることは、かなりの努力が必要と感じている。

③ 就農して良かった点

- 都市部にはない自然が多く空気の澄んだ地方に住むことで、心も体も健康的になった。
- 自分の時間配分で仕事ができることに喜びを感じている。

④ 今後の目標

- 米需要の減少等で、米価の下落が続く昨今の事情から、利益率向上やコスト削減を考慮する必要がある。
- 今の労働力事情では現在の経営規模が限界に近く、今後は借地のほ場条件にもこだわる必要性を感じている。
- 資材の高騰もあり、経営面の安定性を考え、他の作物の導入も考えていきたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

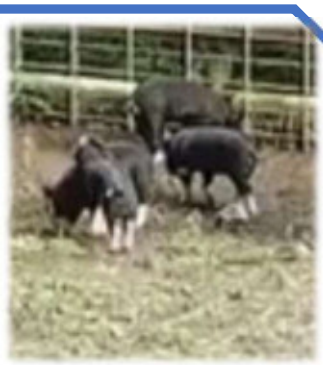
- 未経験者が就農する場合は、法人等で経験を積んで、十分な資金の準備ができた段階で考えるべき。
- 「土いじりがしたい」、「田舎暮らしがしたい」等の思いが強く、困難や苦労をいとわない人は挑戦してほしい。

畜産

＜有村（ありむら） 悠樹（ゆうき）＞　豚のことを思い、仕事を楽しむ！

＜基本情報＞
所在地：姶良市
年　齢：37歳（R元.6就農）

＜経営概要＞
品目：養豚（一貫経営）
経営規模：バークシャー種
繁殖雌豚 15頭、種雄豚 1頭
肥育豚 約160頭 一部預託有り



放牧場

＜就農のきっかけ＞
母親の知人に紹介された養豚農家で手伝いをする中で、夢であった養豚経営を自ら行いたいと思うようになり、令和元年６月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞
・令和元年６月に農場一式（畜舎、堆肥舎等含む、敷地面積6,000坪）を取得し就農した。
・経営開始後は、新規就農者助成金を活用し経営安定を図っている。
・母豚のストールフリーによる飼養・放牧を行っている。

＜現在＞
・養豚を身近に感じてもらう目的で、私の子供が通う幼稚園の園児を対象とした、黒豚とのふれあいイベントを開催している。
・獣医薬品に頼らない養豚経営を実践している。

バークシャー種

② これまで苦労した点

・就農直後は出荷がないことから収入がなく、資金繰りに苦労した。また、販路も少なかったことから将来に不安があった。
・販売先を確保することに苦労した。

③ 就農して良かった点

・母豚を放牧するなど、ストールフリーでの飼養を行っており、自分が好きなスタイルでの養豚が出来ている。
・飲食店等に直接販売することにより、お客様からダイレクトに意見を聞くことができる。
・養豚業を始めてから、いろんな業種の方々とのお付き合いが増えて意見が聞けるようになった。
・豚が好きでこの道を選んだことから、豚の穏やかな表情を見ている時に充足感を感じる。

④ 今後の目標

・将来的には、預託をやめて、全て自分で飼養したいと思っており、そのために母豚を20頭規模にまで増頭したい。
・現在は舎飼いをしている肥育豚も放牧で育てていきたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・私は養豚農場勤務の経験があり、養豚業にすぐに取り組めたが、就農前の技術習得は大切だと思う。

野菜　＜梅原（うめはら） 孝志（たかし）＞　農業は全行程に関われるから面白い！

＜基本情報＞
所在地：さつま町
年　齢：41歳（H30.8就農）

＜経営概要＞
品目：施設野菜
面積：トマト 10ａ

直売所向け完熟トマト

＜就農のきっかけ＞
就農前は関東で書店員、その前はＬＳＩシステムエンジニアとして勤務していたが、元々モノづくりに興味を持っていたこともあり、製品を生産するまでの全工程に携われる農業を始めたいと思い、祖父のふるさとさつま町の役場に相談したところ、農地と家を借りることができ、両親とともに移住した。県立農業大学校で10ヶ月間のチャレンジ研修を受け、就農前の３ヶ月間（４月～７月）は近所のトマト農家を手伝い、平成30年８月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞
・当初は借り入れた10aのハウスでイチゴの栽培をやりたかったが、新規就農者一人の労働力で管理することは厳しいのではないかとの町の担当者からの助言もあり、相談の結果、トマト栽培での就農を決意した。
・農業用ハウスは、役場とＪＡの仲介により、高齢で離農された農家から借りることができた。軽トラック、動力噴霧機は就農時に新規で購入したが、トラクターの使用は年に数回なので、近所の農家から借りている。住家はハウス近くの空き家を集落の方の紹介で借りることができた。

ハウス内のトマト

＜現在＞
・収穫量は初年度が18トン、昨年度は19トン。今年はまだ全ての収穫が終わっていないが、誘引、摘葉等の作業が遅れたため適切な薬剤散布が行えず、害虫（コナジラミ）の発生が多く、15トン程度になる見込みである。

② これまで苦労した点

・就農前４月～７月にトマト農家を手伝った時は、収穫後期の作業しか体験できなかったため、就農時の定植作業では何をどうやったらいいのか全く分からない状況であったが、ＪＡの営農指導員や近所のベテラン農家に作業の手順などを教わりながら何とか進めることができた。

③ 就農して良かった点

・自分が思っていたような綺麗なトマトが出来た時の喜び。
・勤めていた時のように時間に縛られることがなく、自分で自由に時間を調整できる。

④ 今後の目標

・トマトの作付面積を増やすこと。
・来年は今年の経験を踏まえ優先作業を見直し、害虫発生を徹底的に抑えること。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・自分のようにＩターンで農業を始める者は、とにかく町の担当者に本気度をアピールしなければ認めてもらえない。就農後は地域との交流が一番大事だと感じた。それができないと教えてくれる人はいないし、続けることもできない。

ばれいしょ ＜堀野（ほりの） 真吾（しんご）＞ 掘りたて新鮮なばれいしょを届けたい！

＜基本情報＞
所在地：長島町
年　齢：36歳（H30.8就農）

＜経営概要＞
品目：ばれいしょ
面積：ばれいしょ　1.8ha
（漁業：アオサ養殖、もじゃこ漁、瀬渡し船）

アオサの養殖作業

＜就農のきっかけ＞
高校卒業後、海上自衛隊に入隊し13年間勤務した。その間イージス艦の乗務員として船に乗った時期もあり誇りを持って勤務していたが、なかなか自分の時間が持てなかった。そのため、父親が営む漁業を引き継ぐことに加え、農業もやってみたいとの思いで、平成30年８月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞
・農地は親の知人や高齢のために農業ができなくなった生産者から20aを購入し、80aは借地。その他に借り入れた山を開拓し、畑として整備した。農業機械は、ばれいしょ掘機やトラクター等、全て中古品を購入した。
・就農前には農業について学校や研修所等で学んだことが全くなかったことから、就農と同時に普及指導員に畝幅や土上げなどの栽培管理、病気への対応などの悩みを相談している。

＜現在＞
・病気を抑えるため土壌診断を年１回行っている。土壌中の微生物を増加させるために、有機カルシウムとして牡蠣殻をすき込んでいる。その他、春作と秋作の間に緑肥としてソルゴーやヒマワリを植えているが、ヒマワリは軟腐病にも効果があると感じている。

カラフルなばれいしょ
（ノーザンルビー、シャドークイーン等）

② これまで苦労した点

・就農当初、経営耕地面積は0.8haから始めたが、耕地の一部には、数年間作付けされていない畑もあり、発芽障害や疫病の被害が大きかったこと。当時は効果的な防除のタイミングが掴めていなかったことが原因だったと感じている。
・就農２年目はばれいしょ価格の暴落で農業収支が赤字となったこと。漁業による収入でなんとか補填することができた。

③ 就農して良かった点

・自分が頑張ることでばれいしょの品質が向上し、収量も増えてきている点に喜びを感じている。また年々、農業収入の比率が上がっており、昨年の収入割合は農業が７割で漁業が３割であった。ばれいしょはふるさと納税返礼品になっており、納税者の方からの評価が高い時には、頑張ろうという意欲が湧いてくる。
・海上自衛隊に勤務していた時より、自分の時間を得ることができている。

④ 今後の目標

・経営耕地面積の拡大を常に考えており、現在より１haほど拡大したい。
・4Hクラブに加入しており、先日、青年農業士に認定された。長島は酸性土壌のため作物が限られてしまうが、メンバーと試行錯誤しながらばれいしょやかんしょに代わる作物を見つけていきたい。
・青果用として出荷できない規格外のばれいしょをレトルト食品や肉じゃが、コロッケ等の原料として有効利用できないか模索中で、現在、製造業者と話を進めている。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・作物を育てられる環境があれば、作りながら学びながらの営農でも良いと思う。失敗から学ぶことも多いので、色々やってみること。
・就農前にある程度の資金の準備は必要だと感じている。就農後は経費を掛けすぎないように収支をよく検討していくことが大事である。

畜産

＜増森（ますもり） 理（おさむ）＞　牛が第一、牛がしあわせであること！

＜基本情報＞
所在地：湧水町
年　齢：44歳（R2.11就農）

＜経営概要＞
品目：肉用牛（繁殖）
経営規模：繁殖雌牛　50頭
（内10頭預託分）
子牛　25頭

繁殖雌牛

＜就農のきっかけ＞

元来、動物が好きで、将来は動物に囲まれて生活したいという夢があり、農業や畜産にも興味があったことから、会社勤めを辞めて就農することを目指した。

農業を始めるにあたっては、鹿児島県や鹿児島県農業・農村振興協会に相談して、第三者農業経営継承により、令和２年11月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞
・農業技術等に関しては、前経営者から１年間の技術研修を受け、その後、独立して経営を開始した。
・畜産経営のノウハウについては、就農以前に配合飼料の配送業に従事していた時に知り合った畜産農家の方々から、課題解決の助言や指導を受けている。

＜現在＞
・前経営者から10頭を預託され、現在は繁殖雌牛50頭を飼育している。
・現在、農場については、借り受けているが、いずれは全てを自己資産とし、経営を安定させたい。

子牛

② これまで苦労した点

・経営移譲時より10頭ほど増頭したため、粗飼料（牧草等）が不足し、購入せざるを得なくなった。
・作業用の機械が全般的に経年劣化しており、作業効率が悪いので更新する必要がある。
・飼料や資材の価格高騰や子牛価格の下落が経営を圧迫している。

③ 就農して良かった点

・自分のやりたかった動物を相手にした仕事に従事できていること。
・自営業なので、作業のやり方など自分のペースで仕事ができること。

④ 今後の目標

・将来は、経営の安定を図るため、現在の２倍程度（100頭）の飼育を目指している。
・農場の施設や機械を更新して作業効率を上げ、利益増大を図っていきたい。
・雇用を行うなど、地域に貢献できる経営者になりたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・就農にあたり、周りの人から「本当にやっていけるのか」との話もあったが、反骨精神で頑張った。強い覚悟があればやっていける。

野菜 ＜上村（かみむら） 直樹（なおき）＞ピーマン栽培を通して地域活性化を目指す！

＜基本情報＞
所在地：大崎町
年　齢：44歳（H28.7就農）

＜経営概要＞
品　目：施設野菜
面　積：ピーマン 23a

上村さんご夫婦

＜就農のきっかけ＞
会社員として働いていたが、以前から農業に興味があり、いつかは農業を始めたいと思っていた。
農業をやるなら地元の大崎町でとの思いから、平成28年７月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞
・農地及びハウスを借受けてピーマン栽培を開始した。
・子育て中であるため、他の作物よりは時間が作りやすいとの話を聞きピーマンを選定した。
・何もわからない状態で就農したが、ＪＡの営農指導員からの指導を受けたり近隣の農家にも相談したりして、栽培技術を学んだ。
＜現在＞
・病気が発生し収穫量が減少した年もあったが、試行錯誤しながら収穫量アップを目指している。

ピーマン

② これまで苦労した点

・農業経験がないまま就農したため、栽培技術の習得に大変苦労した。

③ 就農してよかった点

・家族との時間を持ちながら、自分がやりたかった農業ができること。
・地域の生産者と関わり合いを持って、地域の農業に少しでも貢献できていることにやりがいを感じている。

④ 今後の目標

・栽培技術の向上及び病気・害虫の発生を抑えることにより、単収18トンを目指すとともに収穫量を安定させたい。
・県の指導農業士に認定され、今年から研修生を受け入れる立場になったこともあり、町にピーマンの新規就農者を増やし、地域の活性化に繋げたい。

ハウス内の様子

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・研修等には積極的に参加し、いろんな人の意見を聞き、その中で自分に合った方法を見極めてほしい。
・年々、栽培方法も変わっていくので、前年踏襲だけではなく変える勇気も必要になるため、強い意志を持って頑張ってほしい。
・ゼロからのスタートは初期投資が大きく厳しい面も多いので、いろんな支援等を利用しながら就農をスタートしてもらいたい。

野 菜

＜有留（ありどめ） 尚矢（しょうや）＞　環境制御で豊かな農業経営を目指す！

＜基本情報＞

所在地：東串良町

年　齢：22歳（R2.10就農）

＜経営概要＞

品目：施設野菜

面積：ピーマン 10a

ピーマン

＜就農のきっかけ＞

小さい頃から祖父が農業機械を扱っている姿を見ており、自分でも機械を操作したいという思いから農業に興味を持ちはじめ、小学生の時には就農を考えていた。

中学生になっても思いは変わらなかったため、高校は農業高校へ進学し、農業への理解を深めていった。県立農業大学校への進学も考えたが、祖父の希望もあり高校卒業後の令和２年10月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞

・就農１年目は両親がきゅうりを栽培していたので、親元できゅうりの栽培技術を習得した。

・２年目に10ａのハウスを祖父から譲り受けて独立。作目をきゅうりか、祖父母が栽培しているピーマンかで悩んだが、周囲の勧めや将来的に環境制御技術を導入して単収を増加させたいとの思いから、ピーマン栽培に取り組むこととした。

・祖父が鹿児島県の指導農業士（現地トレーナー）であることから、日々、祖父の指導を受けながら栽培技術を教わった。

＜現在＞

・就農３年目となり、これまでに祖父から受けた指導を実践しつつ、毎日が勉強と思いながら作業を行っている。

・昨年が単収19トンとまずまずの成果を出せたので、今年はそれを上回れるように取り組んでいる。

② これまで苦労した点

・うどんこ病や斑点病が多く発生したことから、農薬の散布方法など病害虫の対策に苦慮している。

・自動開閉装置を導入しているが、温度管理には常に気を配っている。

・いろいろ苦労はあるが、祖父をはじめ先輩方から技術指導を受けられるので、他の就農者より恵まれていると感じている。

③ 就農して良かった点

・自分が頑張った分だけ結果として現れるのでやりがいがある。

・生産したピーマンの収穫量が多かった時は嬉しい。

ハウス内の様子

④ 今後の目標

・栽培面積を現在の10aから数年後には20aへ規模を拡大したい。拡大した10aのハウスには環境制御装置を取り入れて、収量の違いを比較し、今後の農業経営に活かしていきたい。そのためにも炭酸ガス発生装置など、環境制御の勉強をしていきたい。

・農業経営を安定させるためには収量を増やすことが重要なので、環境制御を上手に活用していきたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・自分が栽培して収穫した作物が、消費者から喜んで買ってもらった時は本当に嬉しい。消費者においしい作物を届けるという気持ちが何よりも大事である。

・研修等学習する機会がいろいろあると思うので、積極的に参加して情報収集を行ってほしい。

・農業は休みも少なく、大変なこともあるが、自分が頑張った分だけ成果が返ってくるので、目標をきちんと持って頑張ってほしい。

野菜 ＜上鶴（かみづる） 拓仁（たくみ）＞ 魅力たっぷりな香りに包まれたいちご栽培！

＜基本情報＞

所在地：錦江町
年　齢：31歳（R3.10就農）

＜経営概要＞

品目：施設野菜
面積：いちご 16a

いちご苗のほ場

＜就農のきっかけ＞

農業機械メーカーに勤めていたころ、いちご農家に農機具の修理で訪問した際、ハウスの中に入った時のいちごの香りに大変感動し、いちご農家になることを決意した。妻の承諾を得られたことからいちご栽培の知識も全くない中で10年間勤務した会社を退社し、令和３年10月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞

・就農のきっかけとなったハウスと同じ場所で就農したいと考え、農地やハウスを探していたところ、以前の仕事で繋がりがあった農家の紹介で現在の場所を借りることとなった。
・土地については、農業委員会を通じて、ハウスは暖房機を含め個人契約で借り受けた。
・いちご栽培のノウハウもないまま就農したことから、近隣の先輩農家に技術のアドバイスを受けながら１年間営農した。

＜現在＞

・いちご栽培で最も重要なハダニ類の害虫対策として、天敵であるカブリダニ類を活用する総合的病害虫・雑草管理（ＩＰＭ）を取り入れるなど、環境に配慮したいちごの提供を行っている。

いちごの苗

② これまで苦労した点

・農業について勉強した経験がなかったことから、就農１年目の昨年は、何をすれば良いのか全くわからない状態であった。
・収穫期は、妻などに手伝ってもらいながら作業を行っているが、時期によっては朝４時から夜８時までの長時間の作業となる（雇用は、現在のところ考えていない）。
・就農２年目の現在も、いちご栽培の技術については未熟な点が多く、悪戦苦闘の日々である。

③ 就農して良かった点

・会社勤務時は顧客対応などで神経をすり減らす日々だったが、植物相手の仕事となり精神的に楽になったこと。

④ 今後の目標

・先輩農家等のアドバイスを受け入れながらいちご栽培の技術向上に努め、現在の16aの作付面積で20,000パック（１日当たり最大240～250パック）の出荷量を目指す。
・いちごは大変デリケートな作物なので、収穫時に果肉を傷つけないようにし、収穫ロスを最小限にとどめる技術を日々研究している。
・出荷できないいちごを加工品にする６次産業化にも取り組み、将来は青果及び加工品を販売する店舗を経営したい。
・就農して３年が勝負と考えて技術を磨き、その後もやっていける自信がついた時は、今は他で働いている妻と一緒にいちご栽培を行っていきたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・近隣の先輩農家などのアドバイスを受け入れ、常に思考錯誤を繰り返しながら自分の技術を作り上げることが重要である。
・自分ひとりで営農はできないので、近隣の方々と常に繋がりを持った農業者を目指してほしい。

畜産 ＜馬場園（ばばぞの） 仁孝（まさたか）＞ 血統を重視し安定した畜産経営を目指す！

＜基本情報＞

所在地：南大隅町

年　齢：29歳（H28.8就農）

＜経営概要＞

品目：肉用牛（繁殖）

経営規模：繁殖雌牛 45頭、
育成牛 ３頭、子牛 25頭

馬場園さん一家

＜就農のきっかけ＞

県立農業大学校卒業後、法人の牧場で２年間働き、その後も酪農ヘルパーなどを経験し、これらの経験を今後の人生に活かしてみたいとの思いが募り、母のふるさとである南大隅町で肉用牛繁殖農家として、平成28年８月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞

・牛舎は空き牛舎を町内の畜産農家から、牛は先輩繁殖農家から妊娠牛10頭を格安で譲ってもらい営農を開始した。

・公庫の融資を活用し、最初は30頭、２回目に20頭を導入した。また、町の事業等を活用し、牛舎１棟を新築するとともに、既存の牛舎の改築を行った。

・高校、県立農業大学校で畜産の勉強を行うとともに、その後の法人牧場で経験を積み、就農後は先輩繁殖農家のアドバイスを受けながら営農している。

＜現在＞

・牛温恵（分娩予知通報システム）や分娩監視カメラなどのスマート農業機器を導入し、営農における負担軽減の取組を行っている。

・以前は輸入乾草を使用していたが、現在は、牧草を生産している先輩繁殖農家からラッピングされた牧草ロールを調達している。

繁殖牛舎

② これまで苦労した点

・就農６年目であるが、就農までの牛の導入や牛舎の整備もスムーズであり、就農後の分娩における事故が少ない（令和３年度は３頭、本年度は現在まで０頭）など、営農は順調だが、昨今の輸入飼料の高騰による支出増に苦慮している。

③ 就農して良かった点

・独立就農後は自分の考えで営農し、失敗も自分の責任となることから、自分の力で仕事を行っているという充実感を存分に得られている。

④ 今後の目標

・「頭数よりも血統を重視した畜産経営を行うべき」との先輩繁殖農家からのアドバイスがあり、現在は規模拡大を考えていないが、今後はタイミングを見極めた上で法人化し、従業員を雇用することも検討したい。

・近隣に耕作放棄地などが出てきた場合は、農業委員会などを通じて借り受け、牧草の生産を行うことも検討している。

・高能力牛の受精卵移植（ET）を行い、多くの優秀な黒毛和牛を生産するなど新たな技術を導入したい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・自分は綿密な情報収集により、就農希望地の空き畜舎を見つけることができた。就農する際は早めに様々な情報を収集することが必要である。

・先輩繁殖農家から格安で牛を譲ってもらい、現在も様々なアドバイスを受けながら営農に活かしている。人との繋がりを重要視してもらいたい。

野菜　＜中村（なかむら） 由佳（ゆか）＞　植物の魅力を見続ける農業を実践！

＜基本情報＞

所在地：肝付町
年　齢：36歳（H31.1就農）

＜経営概要＞

品目：施設野菜
面積：いんげん（ジャンボインゲン）
　　7ａ

ジャンボインゲン

＜就農のきっかけ＞

小学生のころ、祖父や両親の農作業の姿を見て、将来は自分が畑や果樹園を引き継ぐことになるのかなと、漠然と考えていた。高校卒業後は県外に就職したが、Uターンして農業法人に就職してから、バイオといちご栽培に興味が湧き、自分で農業をやってみたいと思うようになり、平成31年１月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞

・平成29年に町が経営する農業研修センターで１年８カ月間研修生として農業経営を学び就農した。
・両親が経営する果樹と周年的に農作業ができるものは、地元で栽培されている「ジャンボインゲン」が最適と考え、栽培することにした。
・近隣の農家から農地を借り受け、ハウスは格安で譲ってもらった。また、トラクターは新規就農者助成金を積み立てて購入した。

＜現在＞

・生産したジャンボインゲンは大きさ毎に選別し、ＪＡを通じて関東及び関西方面に出荷している。

ジャンボインゲンのハウス

② これまで苦労した点

・就農当初から所得は横ばいで推移しているが、ジャンボインゲンの大きさが不揃いになるなど、栽培は思い通りにいかず苦悩の連続であった。最盛期には１日10時間を超える労働時間となり、２～３日間ほとんど寝ずに作業を行うことも多々あった。
・ジャンボインゲンは２番果まで収穫して出荷するが、令和３年度は天候不順の影響で、２番果が収穫できず、所得は例年の2/3程度であった。

③ 就農して良かった点

・農業は子供と一緒に作業ができるなど触れ合う時間が多くあり、子供の成長を直に感じることができる。

④ 今後の目標

・ジャンボインゲンの収量安定に向け日々勉強中である。収益性を上げるため少しでも大きなサイズが収穫できる品種に転換していきたい。
・両親は現在ポンカンなどの栽培を行っているが、今後高齢になっていくことから果樹園を徐々に経営移譲し規模拡大を図っていきたい。
・就農前に働いていた農業法人では、いちご種苗の生産を行っていたことから、将来は自家製苗を用いたいちご栽培を行いたい。その際は、農業体験型農園にして多くの方々に「農業の楽しみ」を伝えていきたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・近隣の農家の方々から、いろいろな面で協力してもらいながら営農を行っている状況なので、地域のコミュニケーションを大切に考えて就農してほしい。

野 菜

＜本藏（もとくら） 知（さとし）＞　自然には勝てない！

＜基本情報＞
所在地：中種子町
年　齢：43歳（R元.９就農）

＜経営概要＞
品目：露地野菜
面積：スナップエンドウ 10a、らっかせい 3a、
ブロッコリー 25a、ニガウリ 50本、
オクラ 2a

らっかせい

＜就農のきっかけ＞
鹿児島市のホテルに勤務していたが、妻の実家から農業をやってみないかとの誘いがあり、迷ったもののやることを決断し、妻の出身地である中種子町で、令和元年９月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞
・西之表農業試験場で９ヶ月間の研修を受け、その後も臨時職員として働きながら、妻の実家から賃借した35aの農地で、スナップエンドウ、ばれいしょ、ブロッコリーの栽培を開始した。
・農地は妻の実家からの賃借に加え、他の農家から15aを賃借している。農業機械等は農業を行っている義父からその都度借りている。

＜現在＞
・就農１年目のスナップエンドウの収穫量は１トン（中種子町の平均収穫量は２トン）に届かなかったが、昨年は１トン強で、今年は2.5トン収穫することができた。
・月１回の追肥や殺菌殺虫、また、カルシウムを10日に１回散布したことが良い結果に繋がったと思う。

ニガウリのほ場

② これまで苦労した点

・収入が少なかったこと。そのため、スナップエンドウ、ブロッコリーの裏作として夏場にニガウリやオクラを栽培するようにした。
・スナップエンドウの収穫では、妻の手伝いだけでは人手が足りず、知り合いに声をかけて手伝ってもらった。
・夏場に収穫できる作物がないこと。推奨作物を町やＪＡが示してくれれば良いと思う。

③ 就農して良かった点

・収穫した時の喜び。自分の時間が作れることで家族ともふれ合えること。地域の行事に顔を出す機会が多いことから、現在はPTAの副会長をやっている。昨年までは集落の青壮年部会長をやっていた。

④ 今後の目標

・スナップエンドウは現在の単収を維持しつつ、面積を２a程度増やしたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・農業を始める前に勉強しておくことが大事で、近くにアドバイスを受ける人がいることも重要である。
・１年目は失敗がつきものであることを覚悟しておくこと。最初は作業も雑になりがちなので、周りの人に聞いたり、他の農家のほ場を見に行ったりすることも必要である。
・作業を行うのは一人だが、周りの人の支えや繋がりがあるからこそ、この地で営農ができている。決して、一人ではないことを自覚すること。

野菜　＜山田（やまだ） 豊（ゆたか）＞　土づくりは惜しみなくやる！

＜基本情報＞
所在地：南種子町
年　齢：35歳（H30.10就農）

＜経営概要＞
品目：露地野菜
面積：スナップエンドウ 50a、オクラ 10a、
実エンドウ 5a、スイートコーン 5a、
ばれいしょ 10a

スナップエンドウ

＜就農のきっかけ＞
鹿児島市で会社勤めをしていたが、自分の頑張り次第で結果が出る職業に挑戦したいと思うようになり、様々な職業を思い描いた結果、その考えに近かったのが農業であった。家族と相談しながら、農業に挑戦するという覚悟を決め、出身地である南種子町で就農することを決意。実家は非農家であったため、農地中間管理機構を通して農地を賃借し、新規就農者助成金を活用して、平成30年10月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞
・スナップエンドウを選んだ理由は、研修時に栽培方法を学んだことと、限られた土地で高収益をあげられる（就農当初は土地の確保が難しかった）との判断からであり、その裏作でオクラの栽培を開始した。

＜現在＞
・スナップエンドウとオクラの面積を増やし、実エンドウ、スイートコーン、ばれいしょも栽培している。
・連作障害を防ぐため、ほ場はローテーションを行っている。野菜を作付けしない年には緑肥を栽培しすき込みを行ったり、町に土壌診断を依頼し堆肥を投入するなど、土づくりに力を入れている。
・ＩＰＭ（総合的病害虫・雑草管理）を導入し、畑の周りにソルゴーやゴマ等を植えることで、防虫・防風・天敵対策を行っている。

オクラのほ場

② これまで苦労した点

・25馬力の中古トラクターや動力噴霧器、管理機や耕運機等を初期投資で購入したため、貯蓄は１年でなくなった。
・当初は条件の良い土地の確保が難しかったが、現在は風通しの良いほ場を確保でき改善できている。
・園芸作物は手作業が多く機械化が難しいこと。そのため、昨年は２名を通年雇用していたが、今年の冬場は４名を季節雇用してローテーションしながら作業を行った。
・オクラは、３メートル近い高さまで成長するため、収穫作業に苦労している。

③ 就農して良かった点

・自分の頑張り次第で結果が収益として返ってくること。通帳振込を確認することが楽しみ。
・消費者に食べて喜んでもらえること。
・自営なので農作業の段取りを自分で調整することができ、地域や学校の行事に参加しやすいこと。

④ 今後の目標

・規模を拡大したい。それには、雇用者の確保が課題である。
・収穫量や地力を高めるため、引き続き土壌診断を受けながら、土づくりを惜しみなくやっていきたい。また、ＩＰＭには引き続き挑戦していく。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・就農を目指す方は失敗を恐れずに、いろんな作物に挑戦して、自分にはどの作物が合っているのかを見極めることが重要である。
・一人で悩まず、自分から周りの人に積極的に声かけを行い、コミュニケーションをとることも必要。自分の場合は先輩から失敗談を聞かせてもらったことが役に立っている。

果 樹　＜廣盛（ひろもり） 亮治（りょうじ）＞　おいしい「たんかん」を届けたい！

＜基本情報＞
所在地：屋久島町
年　齢：38歳（R3.4就農）

＜経営概要＞
品目：露地果樹
面積：たんかん 1.1ha

収穫期のたんかん

＜就農のきっかけ＞
関東でイベント等の運営会社に勤めていたが、仕事を辞めて親の移住先である屋久島に住むことにし、屋久島のたんかん農家で手伝いをするうちに、「自分でも作ってみたい」「おいしいたんかんを多くの人に食べてもらいたい」という気持ちを抱き、県立農業大学校に進学。農業委員会から果樹園の斡旋を受け、令和３年４月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞
・農地の40aを賃借し、その後70aを購入した。
（70aの農地は樹齢10年程度の樹が多数、他は30～40年）
・機械装備は草刈り機、動力噴霧器を新品で購入した。
・園芸組合が開催する講習会（3～4回）で、県の普及指導員から指導を受けた。

＜現在＞
・技術的に色々と試している状況で、基礎は県立農業大学校で学んだものの実践はまた違うと感じている。
・就農当初の収量は少なかったが、剪定を工夫するなど、栽培技術が上がっているので、今年は収量が増えるのではと期待している。

たんかんのほ場（取材当時６月）

② これまで苦労した点

・県立農業大学校では、樹齢20年程度の樹で実習してきたが、購入した園地には30～40年経った樹もあり、栽培管理の面でギャップを感じた。島は本土よりも温暖であり、生育のリズムを掴むのにも苦労した。
・樹高は高いもので３メートルあり、脚立作業や防除作業に苦労している。また害虫（ゴマダカミキリやミカンハモグリガなど）の多さにも苦労している。
・農業は天候に左右されるので、思い通りに作業ができないことが多い。特に防除作業ではスケジュール管理が難しく、前倒しできるところは前倒しするようにしている。

③ 就農して良かった点

・１年間大事に育てて収穫した時の喜びは格別である。
・周りからのアドバイスがあることや、わからないことがあれば普及指導員に相談できること。

④ 今後の目標

・管理を行い健全な樹体にすることで単収を上げていきたい。
・いずれは他の品目（ぽんかん、パッションフルーツなど）にもチャレンジしたい。
・将来を見据えて園地の集約を図り、合わせて設備や資材を充実させていきたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・県立農業大学校に行くことも選択肢のひとつと考える。基礎知識を得られ、交友関係も広がりそれが現在も続いている。
・野菜から始めることも選択肢のひとつで、果樹のみでの新規就農は収穫まで期間がかかることから、リスクが高いと感じる。
・ゆくゆくは就農するにしても、まずは就職して知見を広めてからでも遅くはないと思う。
・役場やいろんな人に相談することが重要で自分では気付けなかったアイデアが得られる。分からないことは悩むより、知っている人に聞くことが早くて間違いない。

果 樹　＜大海（おおみ） 満斗（みつと）＞ なるようになる。自然に抗っても仕方ない！

＜基本情報＞
所在地：大和村
年　齢：33歳（R3.9就農）

＜経営概要＞
品目：露地果樹
面積：たんかん　3ha

たんかん

＜就農のきっかけ＞

農家の生まれで子供の頃から手伝いをしており、島の高校から静岡の果樹試験場で２年間学び、１年の契約職員を経て、縁あって東京の仲卸商社に就職した。果実を売る側にいたが、作る側である農業への思いや、高齢になってきた親の状況も考え、農業を始めるために令和２年に帰郷し、新規就農者助成金を受け、令和３年９月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞
- 父と共同で８haを栽培、うち３haは父から賃借している。ほ場は国立公園の中にある。
- 草刈り機、自走モア、乗用モアを購入し、トラクターやスピードスプレイヤーは村からの貸出しを利用している。
- 父に師事し、ＪＡの営農指導員や県の普及指導員による定期的な訪問の時に、栽培技術等について学んだ。
- 自分が一番の若手であるが、同世代の仲間と情報共有や意見交換を行っている。

＜現在＞
- 農薬は益虫まで殺してしまうため、農薬散布の回数を減らし、６月末以降は散布しないようにしている。この方法でダニの発生も減少している。

園地から奄美世界自然遺産を望む

② これまで苦労した点

- 作業は肉体労働であり、特に雑草の管理が大変である。
- 経営は苦しいが何とか生活している。会社員時代に貯金をもっとしておけばよかったと後悔している。
- 天然記念物のアマミノクロウサギの保護の徹底から個体数が増加し、幼木を含め樹木の食害が増えて対応に苦慮しており、共存できる方法がないか模索中である。最近は新聞に掲載されたことで、行政も対策を講じるようになってきている。

③ 就農して良かった点

- 会社勤めと違いストレスが溜まらなくなった。自然が相手なので諦めがつくこと。
- 収量が上がっていくと収益も上がり、励みになる。

④ 今後の目標

- この地域には70haのたんかんが栽培されているが、今後は高齢化による離農や耕作放棄地が出てくるため、その受け皿となって栽培面積を増加させたいと考えている。
- 農地拡大による収量増を目指していく。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- こだわりを持ちすぎないことが重要である。
- 大きな農家から技術の習得も含めて、アドバイスをもらうことで道も開けてくる。
- 学校で学んだことと実際の経営は違うので、アルバイトでも良いから営農前に経験を積んでおくことも必要。その経験が効率化につながっていく。
- どうしても初期投資が必要になることから、営農を開始する際には少なからず貯金をしておくこと。

果 樹　＜前田（まえだ） 博哉（ひろや）＞　地元を活性化したい！

＜基本情報＞
所在地：宇検村
年　齢：63歳（H27.1就農）

＜経営概要＞
品目：露地果樹
面積：たんかん　230～240本、
　　さとうきび　約10a

たんかん

＜就農のきっかけ＞
就農前は関西で働いていたが、45歳でUターンし宇検村に帰って来た。帰村後は親子山村留学など地域おこしを行っており、その一環で農業部会を設立し収益を上げようと思い、たんかん栽培を始めた。
地域の荒廃農地を整備し、たんかんを新植し始めたところ、止められなくなり、平成27年１月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞
・この地区は、昔からさとうきびやたんかん栽培が行われているところである。宇検のたんかんは、潮風に当たりミネラル豊富で美味しいとの評判であったことから、高齢で作業ができない農家の畑や、カミキリムシの被害で耕作放棄されていた畑を借地するなどして栽培を始めた。
・この地区のたんかん栽培の植栽数は、多い人で70～80本だが、収益性を考え200～300本新植することとした。
・農機具は、トラクターと耕運機を中古で購入し、スピードスプレヤーは宇検村から必要に応じて借りている。
・借り入れた農地の借地料は、たんかんの現物で納めている。

＜現在＞
・年4回、開催されるＪＡ主催の栽培講習会や県の普及指導員による講習会に参加して、栽培技術の向上を図っている。
・農薬散布は共同防除を行い、魚粉（瀬戸内町産）を混ぜた肥料を使うなど、たんかんの糖度を上げる工夫をしている。
・就農当初は栽培の基本が分からず、収量も上がらなかったが、現在は栽培技術が向上したことと樹体が成長したことから収量も上がっている。
・昨年は７割が秀品で、台風の影響が少なかったこともあるが、栽培技術の向上を実感している。最近では、地区の耕作放棄地もなくなり、借り受ける農地がほぼ無い状態である。

たんかんのほ場

② これまで苦労した点

・資金面で苦労した。鳥獣被害対策のために廃材等を利用して対応を行っており、防鳥ネットの設置に村からの補助金が増額されるとありがたい。また、防風林を植えるにも資金が必要である。
・たんかん栽培は幼木を新植したことから、収穫できるまで４～５年かかることになり、その間は収入がなく、さとうきびの販売代金がたんかんの運転資金となっていた。

③ 就農して良かった点

・収益ではなく収穫が喜び。そのため、人より良い物を作ろうと頑張れる。また、地区には結（共同作業）の習慣があり、収穫時には近所の人が自主的に手伝いに来てくれる。

④ 今後の目標

・技術を向上させ収量を上げていく。また、幼木が成木になり、収量が増えたらネット販売をやりたい。
・１～２年後には、「たんかん祭り」を開催したい。
・自信を持って販売できるように品質の良いものを作っていきたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・農業に関する専門用語も分からなかったので、事前に勉強しておくこと。
・栽培技術は、就農前に習得しておくこと。
・資金繰りについても考えておくこと。

果 樹

＜広野（ひろの） 裕介（ゆうすけ）＞　感謝と感動・笑顔をつなぐ農業！

＜基本情報＞
所在地：瀬戸内町
年　齢：36歳（H31.4就農）

＜経営概要＞
品目：露地果樹・施設果樹
面積：たんかん、マンゴー、
ドラゴンフルーツ等 120ａ

ドラゴンフルーツ

＜就農のきっかけ＞
福井県生まれ。東京のレストランで調理師をしていたが、農業に興味を持ち、東京での就農相談会に参加した。その際、鹿児島県のブースでトロピカルフルーツに興味を持ち相談したところ、県立農業大学校を紹介され入学。卒業後に、同校の紹介で瀬戸内町へ移住し、平成31年４月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞
・平成31年４月、新規就農者助成金を活用して就農した。
・たんかん成園18ａの譲渡を受けるとともに町のサポートハウス制度を活用してパッションフルーツを植栽し経営を開始した。
・たんかん幼木を40ａ、津之輝30aを新植、その後に奄美振興交付金を活用してビニールハウスを整備し、マンゴー９ａを植栽した。

＜現在＞
・ドラゴンフルーツやスターフルーツ（コンテナ栽培でマンゴーの空きスペースを活用）を新たに導入。また、ふるさと納税への出品やネット販売を中心に販路を開拓するなど、経営の安定化を目指している。

たんかんのほ場

② これまで苦労した点

・地域内に優良農地が少ないこと。当初、農地の貸し手も少なくハウス用農地の確保に苦労した。また、消費地が遠いことから、予め販路のことを考えておく必要があった。

③ 就農して良かった点

・手間を掛けた分は対価として返ってくる。
・自然災害などのリスクが多く大変なこともあるが、お客様からの「ありがとう、美味しかった！」の声が、何よりも励みとなるなど、素晴らしい仕事だと感じている。自分が育てたフルーツを喜んでもらえると最高にハッピーである。

④ 今後の目標

・輸送コストの高騰等もあり、消費者の果樹に対するこれからの需要動向が気になるが、コスト削減と労働時間短縮のため、スマート農業にも取り組みたい。みどりの食料システム戦略を視野に入れ、環境に配慮した持続可能な循環型農業を目指しており、お客様に満足しもらえる魅力的なフルーツを安定的に届けることが目標である。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・農業は経営が安定しにくく苦労も多いが、捉え方、やり方次第で可能性が広がるので、とても魅力的な仕事である。
・令和３年に世界自然遺産に登録された瀬戸内町は、技術習得の研修制度やサポートハウス制度、農地中間管理機構による農地の斡旋など、新規就農者への支援制度が充実しています。ぜひ一緒に瀬戸内町の農業を盛り上げていきませんか！お待ちしています！

畜産

＜吉井（よしい） 和彦（かずひこ）＞ 子供が後を継ぎたいと思える農家経営を！

＜基本情報＞
所在地：龍郷町
年　齢：37歳（H31.4就農）

＜経営概要＞
品目：肉用牛（繁殖）
経営規模：繁殖雌牛 17頭
　　子牛　　９頭

子牛

＜就農のきっかけ＞
就農以前の勤務が長時間労働であったこと。
また、妻の出産と親族の入院等が重なったことから、農業であれば時間を調整し対応ができると考え、平成31年４月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞
・当初は町内の大規模農家で１年半研修を受けた。
・父が畜産農家であったことから畜舎は親から譲り受け、機械は親から借りている。

＜現在＞
・就農後に日本装削蹄協会の認定牛削蹄師を取得し、大島地区北部の削蹄を３名の削蹄師で請け負っている。
・現在、県の畜産基盤強化事業を活用して、新たな畜舎を建設中である。
・牛の姿勢改善に、県大島支庁と協力して現在、実践中である。

牛舎

② これまで苦労した点

・自分が思うような牛に仕上がらなかった時は悩んだ。
・腰のケガをしたことでヘルニアを患い、今でも削蹄作業時には痛みがあり苦労している。
・牛の肩つきが悪かったが、飼槽の高さを変えることで改善を図ることができた。

③ 就農して良かった点

・自分のペースで時間を使えるようになったこと。
・自分で頑張った分は成果として現れること。

④ 今後の目標

・ＩＣＴによる発情検知の試験を行い、効果を実感した。スマート農業に関心があることから、今後は活用していきたいと思っている。
・年１産を目標に分べん間隔の短縮により回転率を上げ、市場平均価格以上での出荷を目指す。
・輸出に興味を持っているので勉強して取り組んでいきたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・畜産で就農するに当たっては、土地の確保が一番肝心である。資金等も含めて、しっかり準備することを勧める。

野 菜

＜福島（ふくしま） 風（かぜ）＞ 皆がうらやましいと思うスローライフを！

＜基本情報＞
所在地：喜界町
年　齢：30歳（H31.4就農）

＜経営概要＞
品目：露地野菜
面積：かぼちゃ 1.5ha、白ごま 20ａ、
スイートコーン 20ａ、
たんかん 10a、とうがらし 10a

とうがらし

＜就農のきっかけ＞
喜界島の高校を卒業後、埼玉県内の建設会社に就職。親の健康上の都合により帰島し、土地改良区で水管理を行っていたが、仕事のやりがいと自由な時間が欲しくなり、平成31年４月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞
・喜界町の農業後継者育成事業（１年間：交付金月額10万円）を活用。その研修品目でかぼちゃを選択し技術を習得した。
その後は、新規就農者助成金を活用した。
・就農当初は親の農機を借りるとともに、公庫の融資を受けて定植機や管理機等を購入した。
・農地については、農業委員会を通じた農地利用権設定により賃借した。

＜現在＞
・当初は、赤字経営であったが、現在は生活ができる程度の利益があり、年々経営が良くなっていると感じている。

トラクター

② これまで苦労した点

・就農当初の初期投資を準備することに苦労した。また、就農初年度は生産した農作物が病害虫の被害を受け収入がなく苦しかった。
・離島は台風災害が多いため、防風対策と緑肥を兼ねて野菜を囲むようにソルゴー等を栽培している。
・収穫時の労働力不足と経験の浅さから作業効率が上がらなかったこと。

③ 就農して良かった点

・自分の時間で仕事が進められ、子ども達との時間も比較的取れるようになったこと。

④ 今後の目標

・防除においては、様々な農薬を使用したことで経験値が向上したので、今後は費用対効果を考えて経営に活かしていきたい。
・かぼちゃの早期出荷に取り組み、価格が少しでも良い時期に出荷するなど経営戦略を考えたい。
・今後は人を雇用して、経営規模の拡大を図りたい。また、喜界島では果実の人気があるので、島の人たちが喜ぶ品目を手掛けて島に還元していきたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・事前に資金を準備することが重要である。農機具は中古の機械を利活用する方法もあるが、後で部品調達等で苦労するリスクがある。また、土地の確保は一番肝心なので、関係機関に相談するなど、準備をしっかりすること。
・１～２年収入がなくても生活できる資金を準備しておくことが望ましい。

野菜　＜吉川（よしかわ） 勝也（かつや）＞　ずっとチャレンジ精神で！

＜基本情報＞
所在地：天城町
年　齢：38歳（R元.6就農）

＜経営概要＞
品目：施設園芸
面積：メロン 15.3a、さとうきび 20a、
パッションフルーツ 15.3a、
実エンドウ ２a

メロン

＜就農のきっかけ＞
横浜市で整体師として就労していたが、いつかは徳之島に帰郷したいと思っていた。
帰郷時は、整体師の仕事も選択肢としていたが、親が農業を営んでおり、農地もあったことから、令和元年６月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞
・横浜市から帰郷し、天城町が運営する農業センター研修生として１年間の研修後、町の施設を借り受け、メロン、実エンドウ、パッションフルーツの栽培を開始した。

＜現在＞
・メロン、パッションフルーツに栽培のウェイトを徐々に置きながら施設の増設を行い規模拡大を図っている。
・栽培回数を重ねるに従い、土づくりの重要性を認識するようになり、今は完熟堆肥等の有機物の投入に努めている。
・さとうきびの「はかま」や近隣の畜産農家から家畜排泄物を調達し、良質な堆肥を自家生産することを検討している。

ハウス内のメロン

② これまで苦労した点

・就農直後は、資金繰りに苦労したが、徐々に収入は増えるようになった。
・現在は、栽培について試行錯誤しながら、収穫物の品質向上に懸命に取り組んでいる。

③ 就農して良かった点

・子供と過ごす時間が増えたこと。
・島には仲間がいるので、仲間とともに地域興しへ参画できていることに充実感を感じる。

④ 今後の目標

・まずは、栽培面積の拡大を図り、インターネット等を活用したデジタル化による販売に取り組みたい。その上で、法人化して人を雇用できる経営を目指していく。
・自分が栽培したメロンやパッションフルーツでジャムなどの加工品を製造・販売するなど、６次産業化に取り組み、島の特産物を増やしていくことにもチャレンジしたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・就農してしばらくは、失敗を重ねて経験値を上げることが成功へつながる。「失敗は失敗ではなく大事な勉強の機会である」とのポジティブな思考が大事である。
・就農当初に農業機械等の道具類は、投資だと思って思い切って揃えること。
・資金繰りの補助のため、新規就農者助成金は受けるべき。

ばれいしょ

＜重村（しげむら） 浩志（こうし）＞　人と人のつながりを大切に！

＜基本情報＞
所在地：伊仙町
年　齢：23歳（R3.4就農）

＜経営概要＞
品目：ばれいしょ、肉用牛（繁殖）
経営規模：ばれいしょ 50a、
繁殖雌牛 ６頭、子牛 ２頭

植付けたばれいしょ

＜就農のきっかけ＞
県立農業大学校肉用牛科で１年間学び、自営の夢を抱きつつ、島内の肉用牛農家で就労していたが、祖父が経営していた農場を譲り受けることとなり、令和３年４月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞
・就農前は島内の肉用牛農家で働いていた。
・祖父の経営を引き継ぐ形で自営就農し、近隣のベテラン農家のアドバイスを受けながら営農を行っている。
・肉用牛農家で働いていた時の貯蓄や新規就農者助成金を基に就農時に不足していた農機具等を購入した。

＜現在＞
・就農後は、血統の良い子牛を自家保留しながら繁殖雌牛を徐々に増頭している。
・就農直後に比べると、ばれいしょの単収も増加している。

ばれいしょ植付け作業

② これまで苦労した点

・生産資材の高騰から利益が思うように伸びないこと。少しでも利益を増やすため、資材（飼料）の購入先や収穫物の販売先の価格等を比較検討している。

③ 就農して良かった点

・農業経営は、営農計画から収穫・販売までが自己完結なので達成感がある。
・自分が努力した分が収入として返ってくる。
・農業経営を通じて人とのつながりが広がった。

④ 今後の目標

・今の作目を維持しつつ経営規模を拡大し、地域に貢献できる経営者となることを目指している。今後は所得の向上を目指し、ばれいしょの作付面積を増やすとともに肉用牛繁殖雌牛の増頭に取り組みたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・就農するに当たっては、当面の経営費はもとより、収入が得られるまでの生活費も必要となる。自己資金を十分に確保しておくこと。
・生産技術のアドバイスをくれる方を見つけておくことも大切である。

花き

＜亘（わたり） 巧生（たくみ）＞　沖泳良部の花をもっと有名に！

＜基本情報＞
所在地：和泊町
年　齢：28歳（R元.9就農）

＜経営概要＞
品目：花き、ばれいしょ
面積：ソリダゴ 10a、
　　ばれいしょ 1.2ha

ソリダゴ

＜就農のきっかけ＞

実家が菊の栽培農家だったことから、高校生の時から将来は農業に従事したいと思っていた。
鹿児島県本土の農業高校を卒業後、社会勉強のため５年間、串木野市漁業協同組合に勤務し、その後、和泊町に帰り１年間親元で農業を学び、令和元年９月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞
・ソリダゴとばれいしょを栽培品目に選定し経営を開始した。
・ソリダゴは花き専門農協へ、ばれいしょは個人業者へ出荷している。
・新規就農者助成金を活用し、トラクターと軽トラックを導入した。

＜現在＞
・経営規模に変化はないが、ばれいしょは本年からＪＡへ出荷する予定で、今のところ生育は順調である。

ばれいしょのほ場

② これまで苦労した点

・昨年は台風の被害を受け収量が半減した。干ばつや台風など、離島特有の自然災害による被害があり作物の管理は大変である。
・労働力の確保に苦労している。

③ 就農して良かった点

・会社勤めと違い勤務時間に縛られず、自分で自由に仕事の配分・調整ができること。
・自営業なので頑張った分だけ収入となることにやりがいを感じている。

④ 今後の目標

・将来的には、ソリダゴ40ａ、ばれいしょ2ha程度に規模拡大したい。
・花き施設を台風に強い鉄骨平張りのハウスに更新したい。また、出荷時の作業時間短縮のため花き選別機を導入したい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・県の普及センター等から発信される情報（栽培情報・支援事業等の案内など）は営農に有益なものが多いので、それらによる情報収集は大事である。
・他の農家を訪問し、栽培方法等を参考にすること。

花き ＜池上（いけがみ） 翔（しょう）＞ 若い力で地域農業を盛り上げていきたい！

＜基本情報＞
所在地：知名町
年　齢：29歳（R3.3就農）

＜経営概要＞
品目：花き
面積：テッポウユリ
切花 4a、球根 15a、
スナップエンドウ 10a

スナップエンドウのほ場

＜就農のきっかけ＞
実家が農家だったので、将来は後継者になるという認識だった。
高校を卒業後は27歳まで陸上自衛隊に勤務していたが、両親の農業経営を継承するために退職し、令和３年３月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞
・テッポウユリは、父親が栽培していたものを引き継いだ。
・新規就農者助成金を利用するに当たり、親の経営とは別に知名町の重点作物であるスナップエンドウの栽培を開始した。
・29aの農地は親から譲り受けた。
・農業機械は、親が所有しているものを共同利用している。

＜現在＞
・農業創出緊急支援事業を活用し、花き用にビニールハウス（８a）を整備する予定（８月着工）。

テッポウユリ

② これまで苦労した点

・自然災害（台風）により収益が減ったこと。
・繁忙期の労働力確保。現在は、両親が元気でお互いに協力し合って作業を行っているが、両親が高齢になった時に繁忙期の労働力不足を懸念している。

③ 就農して良かった点

・努力して頑張った分、形となって帰ってくるのでやりがいがある。
・自営業なので作業内容等の予定が自由に立てられること。

子供と作業中

④ 今後の目標

・将来は父が経営するサトウキビとばれいしょ５haを継承していく。
・町内では離農も増えてきているため、手放される農地を入手し経営面積を拡大していくつもりである。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・私自身は、親の経営を引き継ぐ形で就農したことで身近に相談相手が存在したが、農業が未経験の就農者は、周囲の方のアドバイスをよく聞くなど頼ることも必要だと思う。また、行政機関からの情報も活用することが大事である。
・農業関係の専門学校で学んでから就農することも一つの方法と考える。

畜 産 ＜叶（かのう） 太輔（だいすけ）＞ 法人化により規模拡大と労働環境の改善を図りたい！

＜基本情報＞

所在地：与論町
年　齢：33歳（H25.11就農）

＜経営概要＞

品目：肉用牛（繁殖）
経営規模：繁殖雌牛 38頭

繁殖雌牛

＜就農のきっかけ＞

両親が肉用牛繁殖経営をしていたこともあり、高校在学中から就農を決意していた。両親からは県立農業大学校への進学を勧められたが、牛の飼養管理の勉強は就農してからでもできると思い、自らの判断で九州東海大学に進学し、経営学のほかパソコンのプログラミング、植物学、飼料の給与設計などを学び、平成25年11月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞

・大学卒業後２年間は、両親を手伝いながら牛の飼養管理を勉強し、平成25年、25歳で独立自営就農。離農した農家の牛舎を借り受け繁殖牛５頭で経営を開始した。
・１年目は子牛の出荷がないため、新規就農者助成金を受給し生活費に充当。与論町では初めての受給者となった。
・公庫やＪＡから融資を受け畜舎整備と増頭を図った。

＜現在＞

・繁殖牛を38頭まで増頭しており、融資も数年で返済可能な経営状況に発展した。
・さとうきび農家５戸、肉用牛繁殖農家５戸で耕畜連携に取組んでおり、さとうきび栽培では牛糞堆肥の散布による有機物の還元により生育が良好となり、畜産農家は堆肥処理の課題が解消した。また、さとうきび収穫後に牧草を植えることで、さとうきび農家は雑草対策、畜産農家は牧草確保など、双方にメリットがある。

子牛

② これまで苦労した点

・資金面で苦労したこと。就農するに当たっては、畜産の飼養技術等も必要だが、農業経営（資金運用等）をしっかり学んでおけば良かったと後悔した。

③ 就農して良かった点

・経営者なので自分の考えで経営を進められること。また、規模拡大や休暇の取り方など自分のタイミングで選択できる。
・頑張った分の成果が収入に反映されるのでやりがいを感じる。

④ 今後の目標

・先ずは法人化し従業員を雇用した上で、休日にはしっかり休める態勢を（従業員も含めた畜産分野での働き方改革）構築したい。
・当面は50頭規模までの増頭を目指し、徐々にスマート機器も導入していきたい。
・与論島は農地が限られており、増頭するためには飼料作物用の農地確保が必要なので、耕畜連携に取り組みつつ、高齢化で離農する農家の農地を引き受け飼料作物の増産を図りたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

・農業技術も大事だが、資金運用を始めとした経営を勉強してから就農してほしい。
・国からの新規就農者助成金は生活費にしかならないので、必要な初期投資は融資を活用するなど、躊躇せずに実行してほしい。

次代を担う鹿児島の農業者たち

令和４年12月

発行：九州農政局鹿児島県拠点
編集：地方参事官室

〒892―0816
鹿児島市山下町13番21号　鹿児島合同庁舎4階
TEL：099-222-5840（代表）　FAX：099-223-7302

ホームページでも
見ることが出来ます